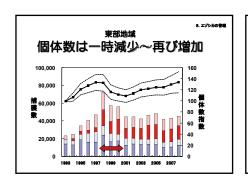


写真: 杣田美野里

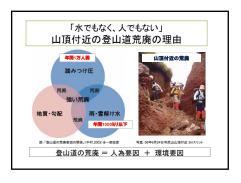


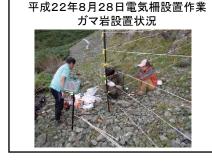
















## 北海道高山植物保護ネット第1回市民フォーラム「お花畑は、いま・・・」

1998年に発足した「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク」(加盟 40 団体)は、高山帯が抱えるさまざまな問題に取り組むため、今年「北海道高山植物保護ネット」と改称します。盗掘のみならず、オーバーユース問題や外来種・エゾシカの増加、温暖化などにも取り組むネットワークとして、今回は北海道の高山帯が直面している問題について提言します。

◆日時 2010年11月27日(エ) 13時から17時半 ◆会場 北海道大学大学院環境科学院 大講堂(D201) 札幌市北区北10条西5丁目	
◆ウェブサイト http://www.cho.co.jp/hap-net	
◆スケジュールと目次	
13:00 開演・主催挨拶	-01
小野有五(前委員長、北大教授)、大原雅(委員長、北大教授)	
13:20 ~ 14:00 講演 礼文・高山植物と共に暮らす	-02
14:10 ~ 14:50 講演 エゾシカの今と昔 ~生態と保全・管理~	-03
15:00 ~ 15:50 若手研究者による研究事例紹介	
雪解け時期の変動に対する高山植物の生活史戦略 川合由加(北大環境科学院)	-06
性転換する植物・マムシグサの繁殖戦略 大松ちひろ(北大環境科学院)	-07
16:00 ~ 17:30 地域からの報告	
2010 年に出会った花、気になった花 梅沢 俊 (植物写真家)	-08
利尻山の登山道補修について 岡田伸也 (環境省稚内自然保護官事務所)	
<b>夕張の高山植物に係るエゾシカ被害防止対策</b> 坂村 武(北海道環境生活部自然環境課)	
<b>崕山の現状、保護の取り組みについて</b> 山岡桂司(崕山自然保護協議会/芦別山岳会)	
<b>帯広市北海道帯広農業高等学校カシワ林の保護を求めて</b> 鏡 坦(市民フォーラム十勝)	-16
全体総括、今後の取り組みについて 佐藤 謙(北海学園大教授)	
◆加盟団体からの現況、活動報告	
大千軒岳のお花畑・・・・2010 山歩集団青い山脈	- 19
パトロールと <b>野生馬の食害報告</b> 函館自然観察会/鎌鹿隆美	
大平山の現状 エコ島牧代表/吉澤 隆	
オロフレ自然研究室 2010 年活動報告 石崎黄太	25
<b>日高山脈における現況</b> 日高山脈ファンクラブ/高橋 健	- 27
ユウパリコザクラの会 平成 22 年度活動実績	- 29
雨竜沼湿原を愛する会 2010 年度活動報告	-31
大雪と石狩の自然を守る会 2010 年度活動報告	
<b>利尻島からの報告~利尻山の未来~</b> 小杉和樹(利尻島自然情報センター)	-37
<b>2010 年礼文島からの報告</b> レブンクル自然館 / 宮本誠一郎	- 39
大雪山におけるエゾシカ出没の現況とアンケート調査への協力のお願い	
環境省北海道地方環境事務所+さっぽろ自然調査館	-40
<b>今後の活動内容の整理と情報蓄積に向けて</b> さっぽろ自然調査館	- 44

## 「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク」の 12 年をふりかえって



小野有五(北海道高山植物盗掘防止ネットワーク代表; 北大・大学院地球環境科学研究院)

1997年の夕張岳での大量盗掘がきっかけとなり、一地域の対応では守りきれない北海道の高山植物を全道的なネットワークで守っていこうと、翌年春、結成されたのが「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク」です。夕張岳、アポイ岳、利尻・礼文、大千軒岳、オビラ(大平)山など、道内

の各山岳で盗掘防止に努力されていた地元団体はもちろん、山岳団体や、山草愛好団体も加わって、盗掘を減らすために熱い議論を戦わせた日々のことが、今では懐かしく思い出されます。最初は敵対意識さえあった自然保護関係者と山草愛好者が、高山植物を保護したいという目標でまとまり、野生希少動植物の保護条例を道につくらせたことは、ネットワークの大きな成果の一つだったと思います。ノボリを手にみんなで盗掘防止のパトロール登山をしたり、礼文島の港で、フェリーから降りてくる観光客に盗掘防止を呼びかけたこともありました。また島牧では、小中学校で地元オビラ山の高山植物の大切さを知ってもらう授業をしたこともあります。法務大臣に会って盗掘への厳罰をお願いしたり、道警にはパトロールの強化をお願いしたり、行政への働きかけもいろいろやりました。

盗掘は以前よりは減ったと思いますが、無くなったわけではありません。道条例もまだ不十分なものです。また最近では、盗掘以外にもさまざまな問題が起きています。これらに対処するため、会の名称を変え、代表も植物の専門家になっていただき、より広い視野から取り組める体制にいたしました。どうかこれまで以上に、皆様のご支援をお願いいたします。

## 「北海道高山植物保護ネット」の今後に向けて



大原 雅(北海道高山植物保護ネット代表;北大・大学院地球環境科学研究院)

本会の「北海道高山植物保護ネット」への名称変更とともに、小野先生から委員長の引き継ぎを仰せつかりました。これまで、本会の前身となる「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク」の立ち上げから、長年にわたり活動をリードされてこられました小野先生のご苦労、ご尽力に感謝いたしますとともに、引き続き本会のサポートをお願いしたいと思います。

現在、北海道の高山では盗掘のみならず、外来生物、エゾシカ、オーバーユーズ、登山道の荒廃、ゴミ、トイレなど、さまざまな問題が同時多発的に起きています。そして、これらの問題が急速に進む一方で、これらの問題を解決する最も大きな壁は、さまざまな対応策の実施、仮に実施できたとしてもその効果を短期間で検証することが難しく、現実には試行錯誤の連続であることです。また、上記の問題は、いずれも個別の問題ではなく、高山生態系の中で総合的な視野から解決していなくてはいけない問題ばかりです。しかし、そこでただ難しい問題と言っていて諦めていては何も始まりません。この「北海道高山植物保護ネット」が、日々、多様な現場で活動されている団体・組織の取り組みの自主性・主体性を尊重し、研究者、そして行政との連携の中で、ともに問題や情報を共有し、固定概念に捕われず、地域に合った解決策が見つかる場になればと願っております。そのために、微力ではありますが、みなさまのお力をお借りして、本会がより有意義なネットワークとなるように努力してまいりたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。



#### 杣田美野里(環境 NPO 礼文島自然情報センター 植物写真家)

今年の礼文島は札幌や東京ほどではないにしても、かなり暑かったんです。春先の低温と、夏の暑さが特徴的な年になりました。そのせいか草原の草丈は高くなり、こんな夏が続いたら高山植物たちはどうなるのだろうと多くの人が口にしました。でも6月のエゾノハクサンイチゲやレブンキンバイソウ、8月のリシリブシの群落は今まで見たことのない美しさでした。まずはそんな今年撮ったばかりの礼文島の花の写真をご覧いただきながら、礼文の自然を紹介したいと思います。

礼文島は高山植物の生育地と人の暮らしがほぼ同じ高さにあり、それが最大の魅力です。でも 生活圏と保護地区が隣り合わせているため、人間の活動が自然環境に影響しやすと言えます。

私は環境NPO礼文島自然情報センターの一員として、盗掘防止、自然歩道の保全、外来種の除去、環境教育などに取り組んでいます。自然は壊すのも守るのも人であり、活動を進めるには島に住む人の自然への共通理解が不可欠です。それぞれの生活の歴史がある人たちが自然への価値観を共有するのは簡単ではありません。でも「理解の輪を広げる」ために、それぞれの暮らしへの敬意を忘れず、参加しやすい活動を工夫していくことが大切だと考えます。特に環境教育では子供たちが自分を育む自然を理解することが、大人になったとき人間としての自信につながるのではないかと考えます。そして将来、島の自然を守る力になってくれたなら、それは観光や漁業など島の暮らしを守ることにも繋がることだと考えます。「あきらめない」「成果をあせらない」、なにより大切なのは継続することですから、次の世代に繋げていける「楽しさ」のある活動でありたいと願っています。まだまだ自慢できるほどのものではありませんが、そんな活動の様子も少しご覧いただきます。



#### 杣田美野里(そまだみのり) プロフィール

植物写真家・エッセイスト 1955 年東京都八王子市生まれ。1992年 より北海道礼文島在住。夫は自然写 真家の宮本誠一郎。利尻礼文サロベ ツを中心とした写真撮影の他、出版、 講演活動を通じて自然とのかかわり 方を提案している。2006年より環境 NPO 礼文島自然情報センター共同代 表

著書 花散策ガイド「新版 礼文」「新版 利尻」「サロベツ」の花の道シリーズ3部作(以上、宮本と共著 北海道新聞社)「利尻・礼文自然観察ガイド」(共著、山と渓谷社)など

## エゾシカの今と昔 ~生態と保全・管理~

宇野裕之(道総研環境科学研究センター)

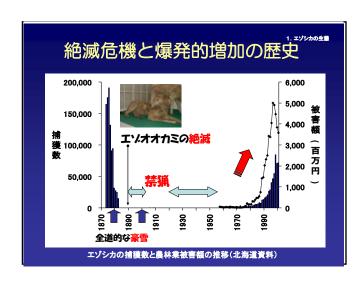
## エゾシカの今と昔 ~生態と保全管理~

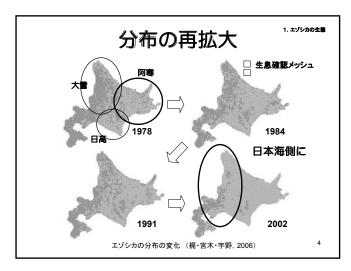


#### 宇野 裕之

道立総合研究機構 環境科学研究センター





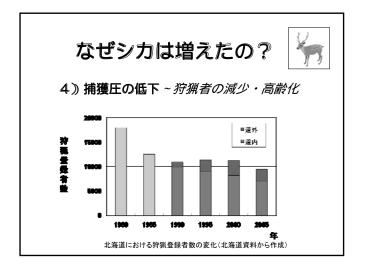


## なぜシカは増えたの?



- 1)高い増加率
  - ~妊娠率は90%以上、 増加率約20%
- 2)生息環境の改変
  - ~ 牧草地、伐採跡地などの増加
- 3)温暖化
  - ~ 冬の**気温上昇**
  - ~ **大雪**の減少
  - **ベラ**のパラ ~**死亡率**の低下

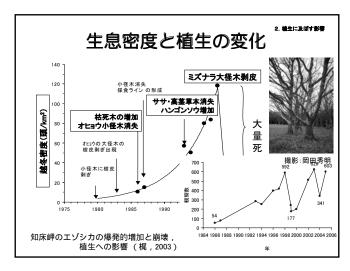












## 許容密度は?

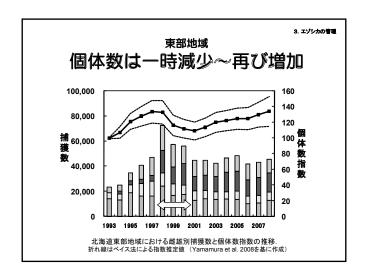
#### (1) 知床岬

- ・40頭/km<sup>2</sup>を越えて生息地激変
  - ~ ササ消失・ミズナラ大径木枯死
- ・**5頭/km²**が暫定目標(1980年代前半)
  - ~2008年度から密度操作実験に着手

#### (2) 阿寒の森林

- ・10頭/km<sup>2</sup>前後に低下
  - ~エンレイソウ属の回復(加入個体の増加)

科学的モニタリング・長期的視点

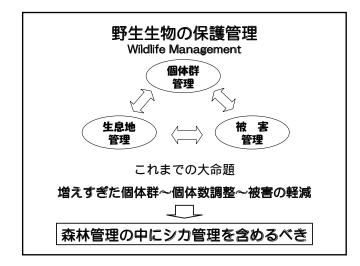


2. 植生に及ぼす影響

## 高山帯への影響把握

- ◆ 影響の実態把握が必要 ~知床・大雪山・夕張岳など ~裸地化・土壌流出の有無
- ◆ 周辺の森林の越冬地 ~影響調査(国有林)
- ◆ シカの移動の把握~GPS調査(南アルプス)~融雪前後に登る?~滞在期間はどれぐらい?







自然資源の持続的利用

## エゾシカ肉の大きな魅力

- 優れた**栄養**(*高タンパク,低脂肪*)
- 豊富なミネラル(鉄分,カルシウム多い)
- アレルギー食
- 究極の地産地消
  - (*北海道ブランド*)
- ゲームミート(野性味)
- おいしい! (宮廷料理)



## 食べて保全

- 有効活用ガイドライン
- 衛生処理マニュアル (道庁) http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/sika/sikatop
- 推奨制度の確立

エゾシカ協会: http://www.yezodeer.com/

- ・買えるお店
- ・味わえるお店
- ・第4火曜日は「シカの日」



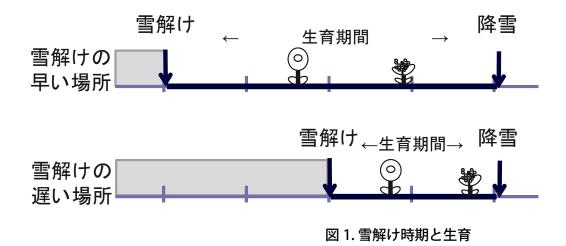
## まとめ

- 1) 高山帯への影響把握
  - ~実態把握~植生調査
  - ~越冬地・シカの移動の把握
- 2) 森林管理~シカ管理
  - ~生息地管理・個体群管理・被害管理 ~フォレスターなどの専門家
- 3) 自然資源の持続的利用
  - ~食べて「生物多様性の保全」

川合由加(北海道大学・環境科学院)

高山帯では雪解け時期が異なる場所がモザイク状に形成されます。この雪解け時期は、高山植物の分布を決定する主要因となります。一方で、雪解け時期の制約を比較的受けず、雪解けの早い場所から遅い場所まで広く分布する種も存在します。そのような種は、同一種内で雪解け時期の異なる環境下に生育する個体集団が形成されます(図1参照)。雪解け時期の違いがもたらす生育期間の違いは、植物の生長や繁殖様式にどのような影響を与えているのでしょうか。今回、北海道大雪山系の雪田地域に広く分布するミヤマリンドウを用いて、生育期間の違いに対する植物の生活史(生長、開花、死亡といった個体の生き方)適応に関する研究を行ないました。ミヤマリンドウのユニークな生活様式や、生育期間の違いに対する繁殖様式と成長動態について明らかになったことを紹介します。

ミヤマリンドウは常緑葉を蓄積し、あるサイズに達すると開花・結実後に枯死する、一回繁殖型の繁殖様式を持っていました。雪解けの遅い個体集団では、開花に要する温度要求性が小さく、雪解けから短時間で開花することで短い生育期間内で結実を終了させることを可能にしていました。さらに開花サイズや年間の生産葉数(生長量)、死亡率といった重要な生活史特性にも雪解けの早い場所と遅い場所の集団間で違いがありました。また同時に行った移植実験の結果から、これらの特性には可塑的な部分と個体集団間で遺伝的に分化している部分があることがわかってきました。雪解け時期という環境の違いが同一種内で空間的に異なる選択圧を生みだし、さらに開花時期の時間的な隔離が個体集団特有な特性の遺伝的な固定を促進させているのだと考えられます。



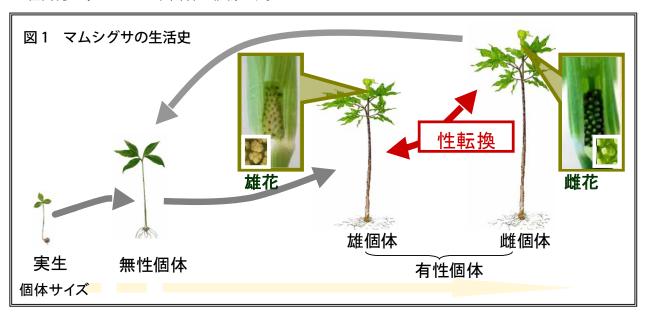
## 性転換する植物・マムシグサ Arisaema serratum の繁殖戦略

大松 ちひろ (北海道大学・環境科学院)

植物の性表現は多種多様です。最も一般的である集団が両性個体のみから構成される雌雄同株や、 雄個体と雌個体から集団が構成される雌雄異株、また両性個体と雌個体から集団が構成される雌性両 全性異株など。長い歴史の中で植物は多様な性表現を進化させてきました。

また、固着性で自ら動けない植物はその繁殖を他者(虫、風など)に頼っています。そのため、雌 雄の空間分布が繁殖に大きな影響を与えると考えられます。

サトイモ科植物のマムシグサ(*Arisaema serratum*)は特殊な繁殖な性表現を有する植物として知られています。マムシグサは1個体に複数の花からなる花序を1つつけるのですが、その花序は雄花もしくは雌花のどちらか一方のみで構成されます。そのため集団中には雄個体と雌個体が存在します。さらにマムシグサは、その性別を年単位で個体サイズに依存して変化させます。(マムシグサの生活史図1参照)この様な"性転換"を行う植物は草本の中ではマムシグサのみであり、植物の多様な性表現を考える上でも興味深い植物です。



マムシグサは、性転換という性質により集団の雌雄の空間分布を年単位でダイナミックに変化させます (図 2 参照)。そこで私は、繁殖と性転換による雌雄の個体群構造の変化との関係に着目してマムシグサの繁殖戦略を明らかにすることを目的として研究を行っています。

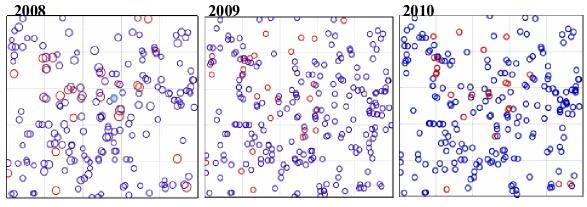
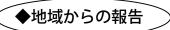


図 2 雌雄の空間分布(同じ地点の3年間にわたる経年調査の結果) ○:雄個体 ○:雌個体



## 2010年に出会った花、気になった花 -今回登場する花リストー

梅沢 俊(植物写真家)

Heterotropa lutchuensis オオバカンアオイ

Amitostigma lepidum オキナワチドリ

*Viola yezoensis f.discolor* タカオスミレ

Viola yezoensis ヒカゲスミレ

Aconitum sp. ニセコレイジンソウ

Aconitum gigas エゾレイジンソウ

Aconitum sp. オシマレイジンソウ

**Dicentra peregrine f.alba** シロバナコマクサ

**Ponerorchis chidori** ヒナチドリ

**Lespedeza eyrtobotrya** マルバハギ

Lespedeza japonica var.japonica f.angustifolia ニシキハギ

*Cirsium* sp. (レブンアザミ)

*Cirsium boreale* コバナアザミ

Typha orientalis コガマ

**Typha latifolia** ガマ

**Pilea japonica** ヤマミズ

**Davallia mariesii** シノブ

*Meconopsis integrifolia* メコノプシス インテグリフォリア

*Meconopsis pseudovenusta* メコノプシス プセウドウエヌスタ



ヒカゲスミレ



シノブ



## 利尻山の登山道補修について

#### 岡田伸也(環境省稚内自然保護官事務所利尻事務室 利尻 AR)











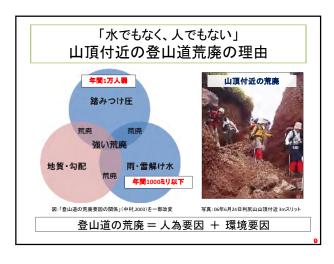


凶 2-4. 淋体調宜溥による工地所有有切込力 <sup>\*\*</sup>























#### 登山道補修の課題

- ・ 土木的視点の普及
  - →登山道補修への土木的視点の導入と、登山者への普及
- ・ソフト対策との連携
- →調査・研究と実際の保護活動の連携、情報対策との連携
- 維持補修(メンテナンス)の充実化
   →予算拡大、ヘリによる補修資材の空輸など
- 登山道を熟知する人間の継続雇用 →技術・知識の伝承
- 他山岳地との連携による面的な山岳地保全 →他山岳地との人的・技術的交流・連携の仕組みづくり

.\_

## 夕張の高山植物に係るエゾシカ被害防止対策 電気柵の設置経過報告

坂村 武(北海道環境生活部自然環境課 特定生物グループ主査)

平成22年5月31日 測量 ガマ岩



平成22年5月31日 測量 吹き通し1

平成22年7月2日合同パトロールシカの踏み跡(男岩付近)



平成22年7月2日合同パトロール 吹き通しエゾシカ足跡



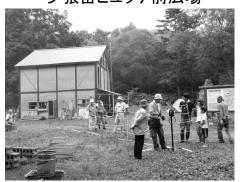
平成22年7月20日希少種等調査 ガマ岩(高山植物生育状況)



平成22年7月21日希少種調査 吹き通し(エゾシカ道)



平成22年8月7日電気柵設置講習 夕張岳ヒュッテ前広場



平成22年8月20日資材運搬作業 吹き通し資材集積



平成22年8月28日電気柵設置作業 ガマ岩



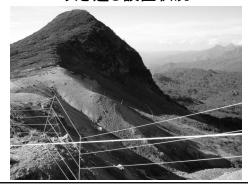
平成22年8月28日電気柵設置作業 ガマ岩設置状況



平成22年8月28日電気柵設置作業 吹き通し



平成22年8月28日電気柵設置作業 吹き通し設置状況



平成22年9月10日モニタリング調査 ガマ岩(この段階では問題なし)



平成22年9月10日モニタリング調査 吹き通し(注意看板巻き付き)



平成22年9月10日モニタリング調査 吹き通し(風による支柱の振れ)



平成22年9月20日パトロール ガマ岩(ミヤマラッキョウの枯れ穂接触)



平成22年9月25日パトロール 吹き通し初雪直後(風強く電線のたるみ著しい)



平成22年10月8日電気柵撤去 吹き通し(風による倒伏)



## 平成22年10月8日電気柵撤去 吹き通し(擦れによる断線)



平成22年10月8日電気柵撤去作業 ガマ岩(風による抜け?エゾシカの侵入跡も)



## 静岡県南アルプス防鹿柵設置状況 聖平(静岡県自然環境課提供)



#### 静岡県南アルプス防鹿柵設置状況 アザミ畑(静岡県自然環境課提供)



#### 本年の電気柵設置に関する主な考察

- 適正に設置し、正常に作動すれば、エゾシカの侵入を防ぐことは可能である。
- 施設については、風による影響が特に大きいことが確認された。
- 施設が一部でも破壊すると、破壊箇所から容易に侵入される。
- こまめな点検が必要な一方で、点検や設置撤去作業の際の 踏み込みが植生に影響を与えることもある。
- 春先からの設置の場合、雪解けと植生の状態により、設置の箇所や時期を再度調整することが必要である。

### 次年度に向けた作業の主な課題と対策

- 風による影響(支柱の振れ、電線の繰り返し屈折) を抑えるため、柔軟性の少ない堅い材質の支柱を 多く使用する。
- 電線をオールステンレス製撚り線に変更して強度を 高め、断線による電流の不通を防ぐ。
- ・本年は、すでに食害を相当受けた時期からの遅い 設置となったが、次年度に向け雪解けの植生への 影響や被害状況等を勘案しながら、作業方法や点 検方法について早い段階から検討し、より早い時期 に設置する。

4

## 帯広市北海道帯広農業高等学校カシワ林の保護を求めて

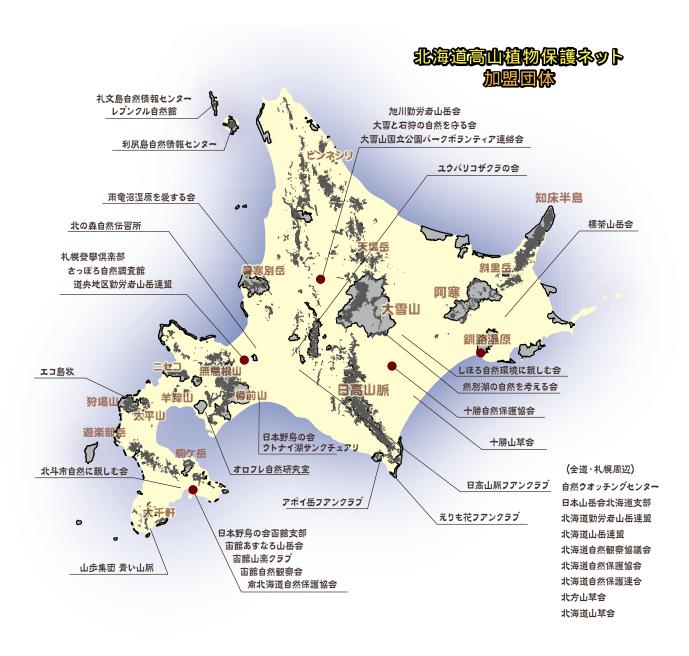
鏡 坦(市民フォーラム十勝)

帯広市は昨年から都市計画決定道路の学園道路で帯広農業高校敷地内のカシワ林(道有林:以下、 農高カシワ林という)への道路拡幅整備を検討してきました。この農高カシワ林(約12ha)は大正 15年に北海道によって防風保安林に指定され、更に昭和49年に貴重な林として環境緑地保護地区 に指定され保護されてきました。また昭和53年に環境庁が行った緑の国勢調査でも希少性・学術性 に優れた自然として特定植物群落と認められ、現状以上に人為を加えず、保護地域として維持される ことが望まれるとされた林です。帯広市も平成9年に環境基本条例を策定し、平成13年に環境基本 計画が作られましたが、この農高カシワ林を含んだ稲田地域を動物・植物が豊かに密集して生息する 地域として稲田コアエリア地域と指定して保護してきています。また平成15年に策定した帯広市緑 の基本計画でも緑の拠点として指定し、保護してきました。かつて十勝平野にはカシワ林は多数有り ましたがそのほとんどは姿を消し、農高カシワ林は十勝に残る全国的にも貴重なカシワの極相林です。

今年10月名古屋で生物多様性保全を議題に日本が議長国になり、СОР10が開催され、北海道 も生物多様性保全計画を発表したこの時にこれまで保護してきた貴重なカシワ林を一部であれ、道路 拡幅整備による伐採することを私たちは認めることが出来ません。十勝総合振興局林務課はこの道路 拡幅整備計画の検討にあたり、防風保安林なので出来るだけ樹を切らずに進めて欲しいと帯広市へ要 望しています。一方、十勝総合振興局自然保護係は、『帯広市の市民が決めれば環境緑地保護地区を 一部解除もやぶさかでは無い。このカシワ林の貴重さを認めつつも生活に必要な道路で拡幅が必要と 帯広市が決めれば解除を進める』と帯広市へ回答しています。この農高カシワ林及び隣接する人工林 内には都市近郊の林でありながらもオオタカ・ハイタカが営巣しエゾモモンガ・エゾリスや絶滅危惧 種に指定されたコウモリ類やニホンザリガニが生息する生物多様性の豊かな林です。国や道の絶滅危 惧種に指定された動物・植物多数が生息している世界遺産にも匹敵する貴重な原生林であるとまで言 う研究者もいます。北海道がこの帯広市が検討を始めている道路拡幅整備にあたって、これまで保護 してきたことをふまえてカシワ林は切らずに道路拡幅をすべきとの姿勢を示していれば、帯広市はそ れに従って道路拡幅を検討を進めたと考えられます。十勝総合振興局自然保護係が上記の様な姿勢を 帯広市へ示したばかりに貴重なカシワ林の一部伐採が検討されているのです。北海道は優れた自然環 境は保全し、野生生物の適正な保護をするとこれまでも道民へ約束してきています。私たちは北海道 知事に対してこの様な経過とこの農高カシワ林の貴重さを確かめられて、道民の財産である道有林の 農高カシワ林保護に向けて行動されることを強く要望しています。

9月25日、私たちの会が今年行っている『2010自然と環境・連続公開講座 in 十勝』の講座で佐藤謙さん(北海道自然保護協会会長)を講師に農高カシワ林でこのカシワ林の生物多様性の豊かさと貴重性を確かめ合う自然観察会を行いましたが、『敷地内には2段の段丘が有り、高い段丘の上にはカシワの純林、低い段丘面上にはハルニレ・ヤチダモなどが、段丘崖には水が湧き出ている所が何カ所かあり、小さな水の流れ・湿地・沼と多様な自然がセットになって残っている貴重な林である。』事を参加者一同、あらためて林内を散策しながら確認し合いました。今後カシワ林の保護に向けて、学びの場と自然観察会などの確かめ合う場をつくりながら、帯広市民のみなさん・道民のみなさんと共に検討し合いながらカシワ林の保護を実現して行きたいと思います。

# 加盟団体からの現況、活動報告



### 北海道高山植物保護ネット(旧称北海道高山植物盗掘防止ネットワーク) 委員・事務局・加盟団体名簿

#### 委員

No	区分	氏名	所属等
1	委員長	大原 雅	北海道大学教授
2	常任委員	梅沢 俊	植物写真家
3	常任委員	小野有五	北海道大学教授
4	常任委員	佐藤 謙	北海学園大教授
5	常任委員	鮫島惇一郎	自然環境研究室主宰
6	常任委員	高橋英樹	北海道大学教授
8	常任委員	工藤 岳	北海道大学准教授
9	常任委員	愛甲哲也	北海道大学准教授
10	常任委員	渡辺悌二	北海道大学准教授

#### 事務局

No	区分	氏名	所属等
11	事務局長	水野洋一	アポイ岳フアンクラブ
12	事務局次長	田中正人	アポイ岳フアンクラブ
13	事務局	樋口みな子	日本山岳会北海道支部
14	事務局	長谷川雄助	日本山岳会北海道支部
15	事務局	藤井純一	ユウパリコザクラの会
16	事務局	渡辺 修	さっぽろ自然調査館
17	事務局	丹羽真一	さっぽろ自然調査館

#### 加盟団体

	加里国界		
No	区分	団体名	担当者
1	加盟団体	アポイ岳フアンクラブ	水野洋一
2	加盟団体	雨竜沼湿原を愛する会	高島光雄
3	加盟団体	エコ島牧	吉沢 隆
4	加盟団体	えりも花フアンクラブ	小川とく子
5	加盟団体	オロフレ自然研究室	石崎黄太
6	加盟団体	北の森自然伝習所	三木 昇
7	加盟団体	さっぽろ自然調査館	渡辺修
8	加盟団体	札幌登攀俱楽部	吉野裕宣
9	加盟団体	山歩集団 青い山脈	清水和男
10	加盟団体	然別湖の自然を考える会	石川昇司
11	加盟団体	自然ウオッチングセンター	島田明英
12	加盟団体	標茶山岳会	田代和男
13	加盟団体	しほろ自然環境に親しむ会	佐藤庄一郎
14	加盟団体	大雪山国立公園パーク ボランティア連絡会	岡花博文
15	加盟団体	大雪と石狩の自然を守る会	寺島一男
16	加盟団体	十勝山草会	森野幸作
17	加盟団体	十勝自然保護協会	安藤御史
18	加盟団体	日本山岳会北海道支部	西山泰正
19	加盟団体	日本野鳥の会ウトナイ湖 サンクチュアリ	葉山政治
20	加盟団体	日本野鳥の会函館支部	有馬健二

#### 加盟団体

	73H TILL 121 FT		
No	区分	団体名	担当者
21	加盟団体	函館あすなろ山岳会	佐野四郎
22	加盟団体	函館山楽クラブ	若生三基男
23	加盟団体	日高山脈フアンクラブ	高橋 健
24	加盟団体	北斗市自然に親しむ会	丸岡進一
25	加盟団体	北海道勤労者山岳連盟	安田 治
26	加盟団体	道央地区勤労者山岳連盟	尾谷 賢
27	加盟団体	旭川勤労者山岳会	沢田修一
28	加盟団体	北海道山岳連盟	石丸芳子
29	加盟団体	北海道山草会	足立興紀
30	加盟団体	北海道自然観察協議会	桑原 修
31	加盟団体	北海道自然保護協会	佐藤 謙
32	加盟団体	北海道自然保護連合	反橋一夫
33	加盟団体	北方山草会	五十嵐 博
34	加盟団体	函館自然観察会	鎌鹿隆美
35	加盟団体	南北海道自然保護協会	宗像和彦
36	加盟団体	森遊びサポートセンター	小林文男
37	加盟団体	ユウパリコザクラの会	水尾君尾
38	加盟団体	利尻島自然情報センター	小杉和樹
39	加盟団体	レブンクル自然館	宮本誠一郎
40	加盟団体	礼文島自然情報センター	村上賢治

山歩集団 青い山脈

山岳自然保護活動と融合した登山活動を目的とし 1988 年に当団体は設立された。 1998 年に北海道高山植物盗掘防止ネットワークの設立に加わり、今また時代の 要請に応え、"盗防ネット"から"保護ネット"へと脱皮した全道組織の中で、 当会の活動には聊かの揺るぎもない。

#### 1. 盗掘の過去と現在

山を征服するのではなく、山を敬うという思想を高めるための山岳会として発足したのであったが、 最初に遭遇したのは母山大千軒岳の盗掘問題への取組みであった。

登山の初心者指導と並行して行なったパトロール活動の動機は、ホテイアツモリとキバナシャクナゲの大量盗掘であった。わずか  $5\sim6$  年の間にこの二つの植物が大千軒岳から堀り尽された。 2 千個の穴が残った。

あれから20年余、試行錯誤をくり返しながら推し進めてきたパトロール活動。盗掘さえ止めると必ず復活するとの信念をもとに励まし合い続けてきたボランティアレンジャー達の努力は、まだ終ることがない。盗掘跡の穴の縁から育った幼苗を含めて、現在ホテイアツモリの個体は33株。うち花をつける成株は15株程度と思われる。この程度の個体数では昆虫による自然受粉も困難で、見方によってはまだ全滅に近い状態だという。人工授粉による現地への播種は発芽に至らず、失敗のまま現在新たな方法を模索している。

キバナシャクナゲも、盗掘跡の縁から出た新苗がかなり大きくなってきた。あと何年かかるか、花をつけるようになるお花畑を夢見て、当番交替制のパトロールを続けている。ボランティア登録者数25名。高齢者が多い。

#### 2. 登山者のマナー

花の山として近年ますます登山者数が増えている大千軒岳は、ごみのない山としても評判が良い。 それでも近隣の山岳会のいくつかで年間計画に清掃登山を組み入れており、登山口からお花畑まで煙草の吸い殻さえ見ることがない。

かつては登山大会のたびに休憩場所の踏みつけ被害が多かったが、各主催団体への指導で改善された。集団での昼食場所の指定などが効果的であった。指導の困難なのは、エコツアーとはいい難い商業登山の団体である。リーダーの資質を備えたガイドがいる場合はよいが、指導力の不足なガイドだと登山者の千差万別の技能やマナーを統御することが難しいからである。

最も普通に見られる「踏みつけ」は、花の撮影の時に起きる。歩道からアツモリソウが見えようものなら、たちまち草原に「踏み荒らし」ができる。今年も・・・・

#### 3. エゾシカ

渡島半島日本海沿岸を南下して来たエゾシカが松前町に達し、20年前から矢越岬から福島町沿岸 に棲息していたエゾシカが白神岬まで達し、北海道南端で繋ってしまった。

エゾシカはいま、松前半島最高峰の大千軒岳へ向って、各沢筋の尾根伝いに奥へ奥へと進んでいる。なぜわざわざ、餌の少ない山岳地帯へ登って行くのか。あるハンターにそのわけを聞いてみたら、直ちに答が返ってきた。「なあに人間が追い上げているのさ。ハンターばかりじゃない。公園から、人

家の近くから、畑から、林から、人間は鹿を見ると大騒ぎして追い立て、追い上げ、鹿は麓で居場所 が無いのさ。」

#### 4. 地球温暖化

カタクリ、ショウジョウバカマ、ミヤマキンバイ、キバナシャクナゲと咲き進み、ハクサンイチゲ、オオサクラソウが満開になるころ、大千軒岳のお花畑の女王シラネアオイが群落をつくり出す。その 雪田跡が沿う嶺線の長さと谷底へと流れる群落の規模は、我が国屈指と言われるが、近年の雪不足で 花の密度が薄くなってきたように思う。

ミヤマオダマキ、チシマキンレイカ、ホテイアツモリが咲き終る頃、イブキトラノオ、カラマツソウ、チシマフウロ、エゾカンゾウ(ゼンテイカ)などが夏の始まりを告げる。近年エゾカンゾウの群落密度が年ごとに濃くなり、最盛期にはお花畑を橙一色に埋め尽すまでになった。また花期も早くなった。雪不足による乾燥化現象である。

お花畑の乾燥化の顕著なものは、チシマザサの侵入である。草原とササ帯を分けていた歩道を乗り 越えて、ササ群落の拡大が進んでいる。歩道の笹刈りには種々神経を使う。

分水嶺東側の雪庇雪崩が少なくなって、沢に倒木が無くなり、また岩肌のコケ類が水分不足になった。ミヤマフタバランやコイチヨウランなどが消えてきた。

#### 5. 学習活動

当会の地域社会での活動は、本来社会教育関係(社会体育)団体として位置づけており更には自然保護学習活動の延長上にある自然保護団体としての役割も担っている。

自然保護学習が深まり社会運動に結びつくには更に多岐に亘る学習が必要で、すでに生涯学習団体としての位置づけにあるといってよい。行事などの実践活動を通しての学習機会とすることが多い。

- <登山行事> 大千軒岳登山(年6回) ・登山ルート3コース各2回・会員外も対象
- <地域対象> 自然観察会(年6回)・うち2回は教育委員会と共催 ・一般参加
- <会員対象 > 自然環境調査 (随時参加可)・日本自然保護協会事業 自然調べ (毎年)

モニ 1000 里地調査(登録地1、試行地1)・北海道フラワーソンなど

#### 6・行政への働きかけ

お花畑の自然環境を保全するためには、登山口からお花畑を含む頂上に至る登山コース全体の保全を考えなければならない。場合によっては一般車道から登山口に至るアプローチも含めて対処が必要なことがあり、各種行政機関との連携は重要である、当会では次の協議機関を設けて連携の基本としている。

#### <大千軒岳自然保護対策協議会>

- ◎組織範囲 渡島総合振興局 檜山振興局 福島町 松前町 上ノ国町 檜山森林管理局(渡島)西部森林室 松前警察署 江差警察署 北海道自然保護監視員(3町)北海道鳥獣保護員 南北海道自然保護協会 日本野鳥の会道南桧山 道南虫の会 函館地区山岳連盟 南北海道盗掘防止ネット 日本山岳会道支部函館委員 大千軒岳ボランティアレンジャー G 山歩集団青い山脈(提唱団体)
- ◎協議事項 ①大千軒岳山域における自然環境保全活動・事業の現況報告 ②自然環境保全上の問題点 ③ 各機関・団体等の施策や活動計画 ④その他の協議・連絡事項

#### <日常活動の連携>

登山歩道の欠壊や標識の破損などはできるだけ会員の手作業で一時的な補修を行うようにしている。 その他管理面での情報提供を速やかに行い、行政対応を図るようにしている。

また「お花畑」の利用活用面でも提携を蜜にし、環境保全の啓蒙普及に努めている。

#### パトロールと野生馬の食害報告

#### 函館自然観察会/南北海道盗掘防止ネットワーク事務局 鎌鹿隆美

#### 1. パトロール実施

H22 年度は函館山を皮切りに恵山、横津岳、大平山、足を伸ばしてオロフレ峠などパトロールを実施しました。函館山はボランテア監視員も巡視していて盗掘などありませんが、横津岳、オロフレカルルス山などは登路がガイドロープで区分けして入るところと無い区間があり湿原やお花畑への踏み込みによる植生保護対策が万全ではありませんでした。恵山、横津岳は道が登路切り替えや注意板を計画中で24年度には整備終了予定です。カルルス山は地元で協議中。



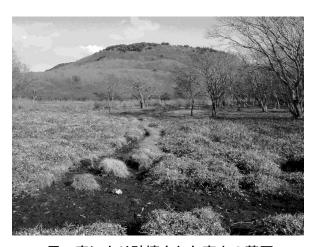
函館山のパトロール



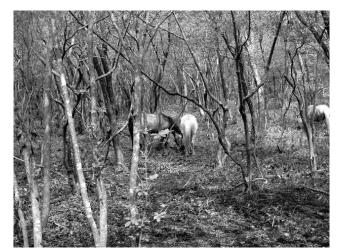
オロフレ峠の破壊されたお花畑

#### 2: 恵山道立自然公園・恵山の野生馬食害問題

恵山地区では狩猟目的で放たれたエゾシカの農業問題が S50 年前からあったようだが、その後、農耕放棄起因の野生馬増大や道産子の放牧 (林間放牧)を自然公園内で行ってきた関係で山塊に当初 10 頭ほどだった放牧馬が 40 頭以上になり馬と鹿の生活圏が海向山を中心に拡大してきました。当会では H10 頃から当該地のエゾイソツツジ、コケモモなど草原植生が広範囲に食害と蹄起因の破壊を広げていることに注目して関係機関へ警告してきました。本年、恵山町と合併した函館市は放牧馬の交通事故や農業被害などの対策も含めて馬の封じ込めと管理にやっと乗り出しました。なお、市の報告では恵山地区の放牧馬は 7 頭まで減り順次整理するように指導中だそうです。エゾシカについては冬季1月に有害駆除を適宜実施中です。



馬、鹿により破壊された恵山の草原



海向山の林間放牧



道新の捕獲作戦の報道

#### エコ島牧代表 吉澤隆

エコ島牧では年々少なくなる大平山の花々に危機感を募らせ以前から、この山の植生の保護を各方面に働きかけております。

重点目標の一つとして、絶対数の少ない貴重種の個体数の把握と毎年の個体数変化の継続的な調査を掲げておりますが、09年7月10年6月に7、8年ぶりに第2ピーク付近の石灰岩の岩稜の上をよく見る機会がありましたので他の場所を含め私見ではありますが、貴重種の変遷を述べたいと思います。



他にも貴重種で心配される植物はありますが、一番残念だったのはアツモリソウの絶滅です。これからも毎年変遷を見続けて行かなくてはと思っています。又、狩場山系ですが、見続けていたカリバオウギが今年の夏災害により場所ごと消滅したことも残念でなりません。

エコ島牧代表 吉澤 隆

#### 三十数年前、エーデルワイスという名前につられて初めて登った大平山、そこはまさに天上お花畑、、、

その花々が心ない盗掘やオーバーユースによる踏み荒らし等により年々花の数を減らし危機的状況です。近年登山口までの道道が整備開通し登山者も増え、この花々たちを次の世代に残せるかどうかが今正念場になっています。

島牧は渡島半島の最北部、後志支庁の一番南はずれにあり、背後は北限帯のブナを中心とした広葉樹林の山々が連なっている人口二千人ほどのちっぽけな村です。島牧で一般的に登山の対象になっている山は渡島半島での最高峰狩場山(標高1520m)と谷ひとつ反対側にある大平山(標高1191m)ですが地質、出来方などの違いにより山容そこに咲く花々などは、明らかに大きく違います。

縁あって三十数年前からこの村に住んでおりますが、山のことも花の名前もほとんどわからずに初めて登った大平山、そこで出会ったウスユキソウ、アツモリソウ、テガタチドリ、ミヤマオダマキ、ミヤマアズマギク、等々足の踏み場がない程の花々たちが咲き競うお花畑が今でも目に焼き付いています。その後毎年のようにこの山に登り続けていますが、1980年代になって、アツモリソウ、テガタチドリ、チョウノスケソウ等が急激に姿を消し、山の斜面は穴だらけでした。当時この山のパトロールは全くなくどんな花でも盗りほうだい、ついに登山道沿いからはアツモリソウの開花株はほとんど姿を消してしまいました。しかし地元では山の花のことなど話題に上ることもなくこの山の特殊性、そこに咲く花々の貴重性もまったく認識されていませんでした。

#### ●二十数年ほど前~

その後二十数年ほど前から、この山のふもとを通る開発道路、道道島牧一美利河線の工事が大々的に始まって通行規制があったり、人の目が多くなったり、又盗むべき花が少なくなってしまったということもありこの山にとっては比較的平穏な時期が続きました。

#### ●十数年ほど前~

登山口までの道路の開通予定が現実のものとなり、又同じオオヒラウスユキスソウの咲くキリギシ山が入山制限になったり、熟年者の登山ブームもあり登山者の数は年々増加の一途をたどり、花々へのダメージも重大なものになってきました。年々少なくなる花々を何とかしなくてはと思い、保護組織エコ島牧を設立し、この山の花々の保護を各方面に働きかけることにしました。そのひとつとして1998年に発足した「北海道高山植物盗掘防止ネットワーク委員会」への参加もあります、2001年の全道シンポジウムでは現地報告ということでお話しをさせていただき、2003年、2004年と二年続けて《大平山の高山植物を守ろう島牧フォーラム》という形で、島牧で現地集会も開かれこの山を守るためのアピールも採択されました。また2005年には島牧の次世代をになう子供達に故郷の山の大切さを知ってもらうため、小学校、中学校でネットワーク委員会による《島牧の宝物》と言う特別授業も行われました。

#### ● 現在そしてこれからの課題

フォーラムでのアピールを受け2003年には、官民一体となった「大平山高山植物保護対策協議会」が発足し、エコ島牧もこれに参加することになり合同による年十回程度のパトロールが実施されています。又 貴重種などの踏み荒らしを防ぐためルートの付け替えも検討されて、3カ所ほど実施されました。

登山口まで道路が開通し登りやすくなったこともあり登山者も増え、いまだに盗掘の被害がありたった数株しかなかったアツモリソウはついにこの山から姿を消してしまいました。個人的にはこの特殊な山、特殊な花々を次の世代まで伝えるには、何らかの規制措置も必要と考えてりますが、今のところ具体的な話にはなっておりません。なにはともあれ大平山のお花畑よ永遠にと願ってやみません。

#### オロフレ自然研究室 2010年 活動報告

オロフレ自然研究室 石崎黄太

#### ○はじめに

オロフレ山は胆振管内中西部に位置する標高1230.8mの山です。シーズン中は標高930mのオロフレ峠から二時間半ほどで頂上往復が可能。六月半ばには全山でシラネアオイが咲き誇ります。しかし長い間にわたり、高山植物の盗掘や踏みつけによる荒廃をもたらし、近年はオーバーユースによる登山道の崩壊も顕著になっています。この実体を知って解決することが目的です。

オロフレ自然研究室と申しても、実は個人で会社勤めのかたわら地元 (山麓) に住む利点を生かして、 頻繁に現地を訪れて自然について調査してデータをまとめ、地元団体へ所属して自然保護アピールに 努めているところです。

#### ○ 2010年度活動データ等

\* 入山回数 5月1回 6月5回 7月4回 8月4回 9月2回 10月2回(基本 無雪期) \* 確認植物 ショウジョウバカマ、コケモモ、ミヤマエンレイソウ、チングルマ、エンレイソウ、ツバメオモト、シラネアオイ、ヒメゴヨウイチゴ、ノウゴウイチゴ、ミヤマスミレ、サンカヨウ、コヨウラクツツジ、ミネザクラ、ヒメイチゲ、タチツボスミレ、イワカガミ、チシマキンバイ、ベニバナイチヤクソウ、ムラサキヤシオツツジ、ウコンウツギ、ハクサンチドリ、オオカメノキ、ハクサンボウフウ、コミヤマカタバミ、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウ、アイヌタチツボスミレ、カラマツソウ、チシマフウロ、エゾイチゲ、オオバキスミレ、ノビネチドリ、ミヤマオダマキ、キレハノイヌガラシ、エゾノゼンテイカ、ネバリノギラン、エゾノシモツケソウ、コケイラン、タカネナナカマド、エゾノマルバシモツケ、ミヤマダイコンソウ、ヨツバシオガマ、イワヒゲ、タカネニガナ、シロバナニガナ、タカネナナカマド、ハッコウダシオガマ、ヨツバノオクグルマ、ヤマブキショウマ、コメツツジ、ミヤマホツツジ、ホツツジ、ハイオトギリ、オオヤマサギソウ、オニシモツケ、アリドオシラン、ウツボグサ、ヨツバヒヨドリ、タチギボウシ、ノコギリソウ、ツリガネニンジン、ゲンノショウコ、キンミズヒキ、ハナイカリ、クサノオウ、オオダイコンソウ、ミミコウモリ、エゾノオヤマリンドウ、ミヤマトウバナ、シラネニンジン、アキノキリンソウ、ギンリョウソウ、タカネナデシコ、ウメバチソウ、ヤマハハコ、モイワシャジン他、約80種類

※太字表記の種は今年度初確認…但し、他に比較資料がなく調査精度が拙いためほぼ既確認と推定 \* その他確認生物 野鳥…ウグイス、ウソ、センダイムシクイ、コマドリ、ツツドリ、カッコウ、 ノビタキ、キビタキ、セグロセキレイ、ハシブトガラス、カワラヒワ

#### \* 特記事項

ドクターへリ出動 (6/13)…登山道に体調の悪くなった男性を消防隊員が搬出するのを目撃。他に8月にも出動事例有り(函館鎌鹿氏よりの情報伝聞)

#### (関連画像)



シラネアオイ (6/13)



トクターヘリ (6/13)



エゾシカの足跡 (9/19)

#### ○オロフレ山域での諸問題

「はじめに」とのところでも書きましたが、狭い地域でアプローチがたやすく、コースの難易度も低くそれほど目立つ存在ではありませんが、手軽に登ることができる山として親しまれてきました。

オロフレ峠には昭和初期頃からお花畑が存在することが知られています。昭和37年の道道開通以降は、登別・洞爺湖の二大温泉地を結ぶ観光の要所として訪れる人も増えました。標高1000m級の植生を簡単に目にでき、高山植物の盗掘など不法行為も一気に高まったようです。

昭和63年のトンネル開通後、登山口である峠展望台は枝道化され、平成15年に展望台の売店が撤退しました。結果的に6月~10月の無雪期のみ峠展望台まで車で入れるよう制限されたものの、ちょうど花のシーズンと重なる上、無人地帯となったことで盗掘が増える危険性が高まっています。

あまり信頼できるサイトではないものの、「ミヤマオダマキ (の採取)はオロフレ山だ…」という記述を見て仰天したことがあり、二年前には環境省職員が制服でパトロール中、盗掘者に遭遇して元に戻させた事例も承知しています。その他、イワカガミ、ハクサンチドリなども被害があるようです。峠展望台の駐車場に面した斜面は、かつてお花畑だったそうです。現在は幾筋もの道が造られ、盗掘防止金属ネットも破られ残骸と化していますが、盗掘の他写真撮影で入りこむ方が後を絶ちません。

実際に販売されている所は承知していませんが、オロフレでも盗掘並びに踏み荒らし対策として、 平成18年のシーズンから登山道脇にロープを張っています。また、登山口に啓蒙看板を設置して、 環境省並びに道自然保護監視員(私)の監視パトロールを強化していますが、力不足は否めません。

お花畑以外でも、オロフレ登山道にも危機が迫っています。元々道内屈指の多雨地帯にあるため、 大雨のたびに登山道の崩壊が見られました。特に6月は雪が完全に溶けて、シラネアオイ、イワカガ ミを初めとする高山植物が咲き出すため、訪れる人が集中しています。他地域に比べると地味ながら、 道外からも団体登山ツアーが多々組まれていて、入り込みの増加に拍車をかけているようです。路外 へ出て盗掘や撮影を行なうなど論外ですが、登山中の団体同士のすれ違いなどによるオーバーユース も雨霧に洗われて脆弱な登山道の、拡幅や掘り込み、崩壊を招いているのは間違い有りません。

微力ながら度重なる訴えによって、二年前に環境省で非公式ながら登山道の状況調査が行なわれました。そして今年晩秋に、特に損壊の激しい箇所のみ補修が行なわれたところです。私は仕事で立ち会えませんでしたが、今後は駐車場清掃を行なっている自然公園財団にて管理することも決まりました。上記のロープ張りと補修作業は「洞爺湖周辺の自然環境を考える連絡会」によって行なわれています。環境省、自然公園財団、林野庁、道、周辺自治体の他、地元山岳会や私の所属する「そうべつエコミュージアム友の会」など官民一体での取り組みの結果です。連絡会自体は規約も取り決めも無い緩い集まりのため、今後も積極的に行動して発言提起を続けていきたいと思っています。

その他周辺環境についてですが、ゴミ投棄はそれほど目立ちません。上記の自然公園財団の他、私 も所属する環境省パークボランティアが、四年前からパトロール、並びに外来種のハチ、アザミの調 査を兼ねてゴミ拾いを行なっています。一時、撤去された登山届ポストも、森林管理署への要望によ り今秋復活を見ました。今季ドクターへリ出動が二回もあり、切実な願いが叶いホッとしています。

峠展望台周辺にはいくつかの外来種が侵入しています。登山道の変化としては、年々オオバコが目につくようになり、今やほぼ山頂まで見られるようになりました。またエゾシカの生息も以前は見られなかったのに二年ほど前から痕跡が散見され、ついに今年は警戒音の聴取後、山中で目撃しました。

〒 0520115 有珠郡壮瞥町字弁景 1 9 9 - 3 国/ Fax0142-65-2322 オロフレ自然研究室 (石崎 黄太)情報提供、お問い合わせなどはお気軽に!……E-mail Orofure @ M18.alpha-net.ne.jp (OhtaIshizaki)オロフレ他有珠山や趣味の話題も…ブログ「北海道オロフレ発」http://blogs.yahoo.co.jp/orofure2001(オータ)

日高山脈ファンクラブ 高橋 健

■ Q 1. 活動地域で問題となっている盗掘や野生植物の違法販売の事例について(地域、対象植物、発生時期など)

盗掘跡は近年見かけていません。

■ Q 2. 盗掘や違法販売に対する防止活動として取り組んでいること(監視パトロール、流通規制、啓蒙活動など)

活動の際に腕章をつけての登山

■ Q 3. 活動地域で問題となっている登山道の崩壊や植物の踏みつけ等の事例について(地域、対象植物、 発生時期など)

日高山脈襟裳国定公園にはキャンプ指定地がなく、登山者が自由に幕営できるため、稜線やカールでの裸地化が広がっている。幌尻山荘(山小屋)周辺では、踏みつけによりオオバコやセイヨウタンポポなどの平地植物が侵入してきた。

- Q 4. 登山道の崩壊や植物の踏みつけ等に対する防止活動として取り組んでいること(ロープ張り、整備の提言、啓蒙活動など)
  - ・国定公園管理者である北海道へキャンプ指定地設定要望→道の回答は、現行のキャンプ指定地自体 が法令に基づいているものではないため、北海道としては設定することは考えていない。
  - ・登山マップへのキャンプ適地マークの軽減要望→昭文社「山と高原地図」幌尻岳マップの登山道から離れた北カールのキャンプ適地マークが削除された(前執筆者の梅沢さんのご協力だと思います)。
  - ・幌尻山荘周辺の平地植物を軽減させるため、山小屋周辺のキャンプを禁止し、山小屋への宿泊を義務付ける措置を設置者である平取町へ要望→平成18年シーズンから左記のとおり実施していただいている。
  - ・当会発行の幌尻岳安全マナー登山ガイドマップへキャンプ指定地がないこと、平地植物侵入防止のため幌尻山荘周辺ではキャンプができないことや登山靴の土を払って入山して欲しいこと、盗掘をしないこと当を記載し、一般登山者へ周知している。当登山ガイドマップは秀岳荘白石店で販売していただいている。
- ■Q5. 活動地域で問題となっているトイレや山小屋等の施設整備、ごみ増加などの事例について
  - ・幌尻岳のメインルートである平取町側からの入山者は夏季3ヶ月でおおむね4千人程度で推移している。登山ルート上にある山小屋・幌尻山荘の排泄物処理問題が大きい
- Q 6. トイレや山小屋等の施設整備、ごみ増加などのに対する防止活動として取り組んでいること(整備の提言、携帯トイレ等の推進、清掃登山、啓蒙活動など)
  - ・当会設立の2000年から幌尻岳の清掃登山を実施(災害のあった2003年・2004年は未実施)
  - ・整備の提言を2003年に行い、この具体的行動として2005年から毎年、幌尻山荘の排泄物人力運搬事業を実施し、今年度まで延べ232名のボランティアのご協力により約2787kgもの排

泄物を運搬してきた。さらに登山口の排泄に寄る周辺環境の悪化を軽減するため、当会で仮設トイレ を登山口駐車場に設置し管理(国有林野使用料を国に納付)している。

- ・道外からの登山者が8割を占める当山域では、携帯トイレの終末処理が確定していない現状では導入すべきではないとの考え(山域へのゴミとなる恐れ)から導入していない。
- ■Q7. 活動地域で問題となっている帰化植物の侵入や地域にない植物の播種等の事例について
  - 03に回答済
- Q 8. 帰化植物の侵入や地域にない植物の播種に対する防止活動として取り組んでいること(登山道口での対策、抜き取り、啓蒙活動など)
  - Q4に回答済
- Q 9. 活動地域で問題となっているエゾシカによる被害や植生の変化の事例について
  - ・カール底で見かけることがあるが、被害は今のところ無いように見える
- Q10. 活動地域で問題となっている地球温暖化や環境変化の影響と思われる事例について(積雪の変化、 開花時期の変化、植生の変化など)
  - 把握していません
- Q11. 団体内部向けに取り組んでいる啓蒙活動・学習活動について(勉強会、調査会、観察会など)
  - ・幌尻岳フォーラム・幌尻山荘フォーラム
  - ・日高山脈セミナー
  - 幌尻岳清掃登山
  - · 幌尻山荘排泄物人力運搬事業
- Q12. 一般市民向けに取り組んでいる啓蒙活動・学習活動について(勉強会、調査会、観察会など)・Q11と同じ
- Q13. 活動の中で、行政へ特に働きかけしていること、行政へ要望すること

行政でも山小屋や登山道を実際に管理している町村・森林管理署も概ね実施されている。一番の問題は国定公園を管理していると自ら言っている北海道である。日高山脈襟裳国定公園においては、道有林が多いアポイ岳での実績はあるが、他の山域での北海道のかかわりは皆無といってよい。

そのため当会では提言にまとめるとともに、幌尻岳山岳環境検討委員会を設置し、北海道の担当者 へ委員になるよう依頼したがオブザーバー参加にとどまっている。また下記事項を行うよう要望して いる。

- ・日高山脈襟裳国定公園の適正管理 (来年で指定30年を迎えるが公園利用計画は一度も改訂されていない)
- ・登山利用の実態把握と山岳環境への影響調査(登山者数・利用実態の把握をまったくやってこなかった)
- ・登山者にかかわる問題(高山植物・オーバーユース・安全登山教育)にもっと積極的にかかわるべき。 予算がないの一言で片付けるのが常套手段であるが、そのしわ寄せが地元自治体や山岳会に押し付け られている。
- Q14. ネットワークに期待すること、担って欲しい活動など

日高主稜線の高山植物等植生の総合調査は30年ほど行われていないと思います。国定公園の適正 管理のため北海道へ要望していくためにも、ネットワーク加盟団体の力を借り、日高主稜線の高山植 物等植生の総合調査が実施できないものかと思っています。

## ユウパリコザクラの会 平成22年度活動実績表

平成22年11月27日現在

1. パトロール活動 (参加人員)											
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考		
高山植物パトロール			45	31	6	9	13	104	北海道から委嘱をうけ実施		
森林パトロールボラン ティア			22	11	2	6	6	47	森林管理署との協定に基づき実施		
官民合同パトロール			5	6					空知総合振興局、北海道森林管理局、夕 張市教育委員会、夕張警察署		
清掃・木道整備登山兼パトロール			8		1	2		11			
計	0	0	80	48	9	17	19	173			

#### 2. ヒュッテ管理

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
管理人配置			12	31	29	13	2	87	
補修•整備作業等	2	10	10	10	13	9	7	61	バイオトイレ、炊事テント、ヒュッテ玄関・床・ 裏口修繕、薪搬入等
計	2	10	22	41	42	22	9	148	

3. 道エゾシカネットワーク事業

O. 足エノンが「ハーノーサネ										
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考	
エゾシカネットワーク会議 兼実施研修会	6				8			14	道エゾシカネットワークに加盟	
測量登山兼希少種調査 登山		10		2				12	道自然環境課	
荷上げ設置・撤去作業					18		8	26		
電気柵モニタリングパトロール						9		9		
計	6	10	0	2	26	9	8	61		

#### 4. 交流学習事業

(1) アポイ岳ファンクラブと交流学習登山

場所 夕張岳 開催日 7月24~25日 参加者 アポイ岳ファンクラブ 7名

(2) 日本山岳会北海道支部会員と夕張岳交流登山会

開催日 9月12日 参加者 北海道支部会員 11名

- (3) 3団体交流研修会 雨竜沼湿原を愛する会、崕山自然保護協議会、コザクラの会 場所 崕山 開催日 10月3日 参加者 当会 2名
- (4) 第2回旧産炭地域子ども交流学習事業の開催

場所 夕張岳ヒュッテ、夕張岳登山 開催日 7月24~25日 参加者 18名、当会 7名

- 5. 講演会・研修会の開催
  - (1) 市民講演会 市民参加による環境保全
  - (2) 林野庁長官「森林づくり推進功労者」表彰受賞報告会 開催
    - ・演題「環境保全とNPO」について

講師 渡辺 正基 道自然環境課野生鳥獣グループ 主幹

・演題「北海道エゾシカネットワーク」について

講師 坂村 武 道自然環境課特定生物グループ 主査

・夕張岳 花のスライド上映 秦野 公彦 副代表

会場 夕張市老人福祉会館 開催日 5月15日 参加者 43名

(3) 研修会

演題「北海道の自然保護の現状について」 講師 樋口 みな子 日本山岳会北海道支部 自然保護委員長 開催日 9月11日 会場 夕張岳ヒュッテ 参加者 20名

6. 報告活動

会報「こざくらだより No.82 ~ 84」(3回発行)

- 7. 夕張岳ヒュッテ建替事業
  - (1)6月 3日 夕張岳関係者協議会にて建替プロジェクト公表
    - 10日 ヒュッテ建替要望書案提出 夕張市・空知森林管理署
    - 17日 ヒュッテ建替要望書案提出 北海道森林管理局
    - 8月10日 林野庁長官賞受賞記念 夕張岳ヒュッテ建替1万人委員会と称した委員会を設立 ヒュッテ建替期限は3ヶ年目処、資金は1千万、「1人1ロ千円1万人」からの輪を提唱し 建替費用募金の協力を広く呼びかけている
  - (2) 各関係機関へ要望書

8月24日 ヒュッテ建替要望書 提出先: 夕張市、北海道森林管理局

8月24日 ヒュッテ建替協力の要望書 提出先:北海道知事

11月10日 ヒュッテ建替を促進する要望書 提出先:夕張市長

11月10日 ヒュッテ建替募金に協力する要望書 提出先:夕張市長

11月5日 市内旧小学校解体解体の廃材払い下げ申請受諾

8. 林野庁長官賞受賞

5月8日「国民の森林づくり推進功労者」表彰 会場 東京都 日比谷公園にて

9. 北海道森林管理局 主催 COP10記念イベントに協力

10月11日 エゾシカシンポジウム

会場 札幌エルプラザ

夕張岳の電気柵によるエゾシカ対策の取り組みを発表



# 雨竜沼湿原を愛する会



#### 2010 年活動報告 北海道高山植物保護ネット

ラムサール条約の基本は湿地の保全、ワイズユース(賢明な利用)と交流・学習(CEPA)です。湿原の生態系を守り、湿原の価値を損なう事なく、そこから得られる恵みを持続的に活用しながら且つ子どもたちに残すことがワイズユースです。雨竜沼湿原の文化的価値を高めながら環境保全活動、環境学習、普及啓発、情報伝達活動などの CEPA 活動を通して町民との交流、地域おこしを無償で取り組んでいます。

#### 「環境学習活動」

☆ サンシャイン夏の湿原ガイド&昆虫観察会(第 13 回) 7.25.

雨竜沼湿原の魅力を体一杯楽しみ、花と昆虫の相利共生関係を観て学ぼう。

#### 「環境保全活動」

- ◎ セイヨウオオマルハナバチ防除活動(セイヨウバスターズ) 7.25.
  特定外来生物を防除 植物と昆虫の共生を保全して湿原生態系を守ろう
- ◎ 湿原の防人 セイタカアワダチソウ駆除作戦(第12回) 8.29.
  ゲートパーク周辺の外来植物の抜き取り。湿原を守るにはまず山麓から。
- ◎ ファン感謝デー 晩秋の湿原散策・清掃会(第 18 回) 10.10.1年の感動に感謝して、紅・黄葉に燃える雨竜沼散策と清掃登山です。
- ◎『雨竜沼スタンダード』ストックキャップ着用の推進 盗掘だけが荒廃じゃない、登山道への心配り、ダメージを軽減して。

#### 「湿原生態系調査」

◆ 気象観測(気温と湿度) 6月12日~10月10日まで 雨竜沼湿原入口と南暑寒荘キャンプ場の、湿原と山麓の2箇所で計測。

#### 「普及・啓発活動」

- **△ 環境省主催 エコライフフェア 2010 6.5-6. 東京・代々木公園で開催、参加** 「湿地の恵み展」(RCJ) にスタッフ派遣、ポスター・物産展示紹介した
- **ム 生物多様性条約締約国会議 COP-10 生物多様性交流フェアに参加 10.11-29.** KODOMO バイオダイバシティにスタッフ参加。
- **Δ 北海道ラムサールネットワーク(HRN)総会 in 鶴居 7.10-11.** 道内 12 ラムサールサイトがNWで活動する。
- △ 空知3団体交流学習会(ユウパリコザクラの会・崕山自然保護協議会 ・雨竜沼湿原を愛する会)

今年は芦別・崕山で植生回復業況を見守った。

#### 「情報伝達活動」

□ 雨竜沼湿原 自然情報伝言板 ヒグマ出没情報

親グマと仔グマ 2 頭の「恵岱の親仔グマ」と南暑寒岳を主に生息す

「南暑寒のオヤジ」が出没徘徊・採餌しました。

□ 雨竜沼湿原開花情報

登山道や湿原で開花している花たちを、秋には果実を写真で紹介。元の電話ボックスに掲示。











#### 【雨竜沼スタンダード】

# 雨竜沼湿原 小さな思いやり ストックキャップを忘れずに!

湿原への道はペンケペタン川 ∨ 字渓谷の急斜面、『険竜坂』。ストック・ポールは基本装備の魔法の杖。でもその一突きが、始めは小さな穴だけど、雨水が浸み路面が痛み、植物が泣いています。もし崩れたら……、道が断たれます。

素晴らしい景観と思い出を与えてくれる道と花に優しい心配りを。キャップの着用をお願いします。小さな思いやり、優しさを温原は忘れません。



根がむき出しの険竜坂・登山道





展望台への道 土留め施行

【注意】ストックキャップを着用すると残雪やぬかるみで滑りやすくなることもあります。キャップの着脱 は山の状況に応じて、安全に配慮していただき、植物の保全や登山道侵食の軽減にご協力ください。

雨竜沼湿原を愛する会

\*

団	体	名	大雪と石狩の自然を守る会										
		-1-1	住 所	〒078-8302 旭川市緑が丘2条1丁目1-23									
代	表	者	氏名	寺島一男	電話	0166	-65-1940	FAX	0166-65-1940				
_	7 <b>5</b> -	_	住 所	〒070-8047 旭川市忠和7条6丁目5-3									
事務局		局	氏名	渡辺辰夫	電話	0166	-61-3355	FAX	0166-61-3355				
Е	メー	ル	nutap21	.12@potato.ne.jp	ホームペ	ページ	http://www	w.daisets	u.org				
設 立 年 次 1 9 7 2 年 1 2 月 7 日				会員数	250	名	会 則	有					
活 動 資 金 会費及び寄付金等													

#### ☆ 設立(活動)目的

- 1) 大雪山・石狩川・上川盆地の自然保護
- 2) 自然環境に関する調査研究。
- 3) 環境教育・自然保護教育の実践。
- 4) 環境保全の啓発・普及活動。

#### ☆ 主な活動内容

#### 1. 自然保護運動の推進

- 1) 大雪山縦貫道路問題の取り組み(1971年~1973年 計画中止)
- 2)表大雪循環道路問題の取り組み(1972年~1974年 計画白紙撤回)
- 3) 大雪山国立公園大雪ダム周辺林道問題の取り組み(1973年~1975年 工事中止)
- 4) 大規模林道問題の取り組み(1974年~継続中 計画変更)
- 5) 石狩川水銀汚染問題の取り組み(1975年~1976年 原因解明)
- 6) 日高横断道路問題の取り組み(1979年~2003年 工事中止)
- 7) 十勝岳白金林道違法伐採問題(1984年~1985年 違法伐採認定・復元)
- 8) 石狩川サケ回復運動の取り組み(1984年~継続中)
- 9) 知床国有林伐採問題の取り組み(1986年~1987年伐採中止)
- 10) 大雪山国立公園旭岳山麓野花南スキー場開発問題(1988年計画中止)
- 11) 美瑛富士スキー場問題の取り組み(1990年~ 計画中止)
- 12) 士幌高原道路問題の取り組み(1996年~2001年 工事中止)
- 13) 石狩川野生のサケ復活運動の取り組み(1999年~継続中)
- 14) 大雪山ナキウサギ裁判原告団に参加(1999 年~2001 年 原告勝訴)
- 15) 美瑛川河畔林伐採問題の取り組み(2001年~2004年 計画変更)
- 16) 大雪山世界遺産登録運動の取り組み(2001年~継続中)
- 17) 石狩川上流緑の回廊・フットパスづくりの取り組み(2003年~継続中)
- 18) 外来種セイヨウオオマルハナバチ防除活動の取り組み(2005~継続中)
- 19) 大雪山国立公園森林皆伐問題(2007年~継続中)
- 20) 石狩川水系伊野川河川問題 (2008~2009年)

#### 2. 自然環境調査活動

- 1) 大雪山国立公園林道調査(1973年~1985年)
- 2) 大規模林道実態調査(1975年~継続中)
- 3) 大雪山自然環境調査(1980年~継続中)
- 4) 全道一斉大気汚染 (NO<sub>2</sub>) 調査 (1984 年~1989 年)
- 5) 樹木の大気浄化能力調査 (環境庁連携調査、1993年~1996年)
- 6) 石狩川自然環境・水質調査(1995年~継続中)
- 7) 大雪山美瑛富士クマゲラ・ナキウサギ生息調査 (1994 年~1998 年)
- 8) 大雪山国立公園交通量調査(道教育大岩見沢校との共同調査、1995年)
- 9) 石狩川サケ産卵床湧水調査(1999年~2008)
- 10) 石狩川サケ人工産卵床受精卵埋設実験調査(2005年~継続中)
- 11) 外来種セイヨウオオマルハナバチの生態及び分布調査(2005年~継続中)
- 3. 環境教育・自然保護教育・普及啓発活動の推進
  - 1)大雪山自然観察講座「ひぐま大学」の開講(1981 年~継続中)
    - 大雪山をフィールドにした市民対象の自然観察講座。年間 8 講座。事前学習会「室内セミナー」を

実施。受講者総数延べ約 1850 名 (2010 年 4 月現在)

- 2) 自然学園「グリーンフォーラム旭川」の開校(1975 年〜継続中) 小学生対象の身近な自然をフィールドにした自然体験教室。 毎年 OB・父母含めて約 100 名が参加。 年間 12 教室実施
- 3) 市民例会「ちゃらんけ」の開催(1995 年〜継続中) 市民向対象の環境に関する学習会・討論会・講演会・シンポジウムなど。年間 1〜2 回実施。これ までに 30 回開催(2010 年 4 月現在)
- 4)講演会・学習会講師

郷土博物館・公民館・百寿大学・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・青年の家・消防署・ 人事院・裁判所・NHK・教育委員会・ロータリークラブ・その他民間サークル、企業等の講演会、 学習会で講師活動(1973 年~2010 年 96 回)

5) 旭川市環境アドバイザー

(2005年~継続中)

6) 定期刊行物の発行(1972年~継続中)

機関紙「ヌタプカムシペ」(B5 判・16 頁) 年 3~4 回発行。通巻 139 号 (2010 年 4 月現在)。 会報「カムイミンタラ」(変形 A4 判・平均 80 頁) 年 1 回発行。通巻 29 号 (2010 年 4 月現在)。

- 7) GFA会誌「エララエカッチ」(A4 判・168 頁) 不定期第2号発行(2002 年 6 月)
- 4. 環境保護団体の設立活動
  - 1) 大雪と石狩の自然を守る会を設立(1972年)
  - 2) 北海道自然保護連合を設立(1973年)
  - 3) 石狩川水銀なくす市民の会を設立(1975年)
  - 4) 日高山脈を守る連絡協議会の設立に参加(1979年)
  - 5) 日本の森と自然を守る全国連絡会の設立に参加(1990年)
  - 6) 突哨山と身近な自然を考える会の設立に参加(1990年)
  - 7) 旭川・森と川ネット21設立に参加(2002年)
  - 8) 旭川ゴミ問題市民イニシアティブ (ガイア 21) 設立に参加 (2002年)
  - 9) ストップ日高横断道路全道連絡会設立に参加(2002年)
  - 10)大規模林道問題北海道ネットワーク設立(2004 年)
  - 11) NPO北海道森林再生ネットワーク設立に参加(2005年)
  - 12) 大雪山マルハナバチ市民ネットワーク設立(2006年)
  - 13) 日本の天然林を救う全国連絡会議設立に参加(2006年)
  - 14) 北海道サケネットワーク設立に参加(2006年)
  - 15) 森林生態系保護ネットワーク設立に参加(2008年)
  - 16) 旭川フットパス愛好会設立に参加(2008年)
  - 17) 突哨山運営協議会設立に参加(2008年)
- 5. 行政・公的機関での提言活動
  - 1) 旭川市嵐山整備活用懇談会委員(1995年~2008年)
  - 2) 旭川市自然と共生するまちづくり市民講座実行委員会会長(2001年)
  - 3) 旭川市春光台公園整備懇談会委員(2001年~2002年)
  - 4) 国立大雪青年の家高等学校施設連携研究協議会委員(2001年)
  - 5) 北海道開発局旭川開発建設部牛朱別川整備懇談会委員(1998年~1999年)
  - 6) 旭川市自然共生アクションプラン策定委員会委員(1999年~2001年)
  - 7) 旭川市マスタープラン策定懇談会委員(1999年~2000年)
  - 8) あさひかわ自然共生ネットワーク会長(2002年~2005年)
  - 9) 旭川市忠別川の水辺を考える懇談会委員(2003年~2004年)
  - 10) 北海道開発局旭川開発建設部石狩川上流川づくり懇談会委員(2003年~)
  - 11) 旭川市市民まちづくり計画検討会議幹事(2004年~2005年)
  - 12) 旭川市総合開発計画審議会委員(2005年)
  - 13) 旭川市緑の基本計画懇談会委員(2005年~2006年)
  - 14) 旭川市環境基本計画改訂市民検討会議委員(2007 年~2008 年)
  - 15) 旭川市文化芸術ゾーン形成検討会議委員(2008年~2009年)

#### ☆ 表彰その他受賞等

- 1) 北海道社会貢献賞(自然保護功労)受賞(2001年9月27日)
- 2) 自然保護功労者環境大臣表彰受賞(2006年4月28日)
- 3) 旭川市開村 120 年記念(環境保全功労)受賞(2010 年 9 月 26 日)

# 新しく入学された皆さんへ

大雪山講座「ひぐま大学」は、大雪山国立公園と上川盆地を主なフィールドに、四季を通じて2年サイクルで実施される市民のための自然観察講座です。 "父なる大雪山、母なる石狩川"の豊かな恵みに感謝し、大自然の営み

やロマンに触れながらそのすばらしさを学び、このかけがえのない自然をよりよい姿で時代に引き継ぐことを願って開かれています。

- 今年で開講30周年を迎えました。これまでの受講者総数は、2000名近くなります。すばらしい自然とすてきな人々との感動的な出会いを求めて、今年も大いにご活躍下さい。

# 大雪山講座「ひぐま大学」実施要領

- (1) ひぐま大学は2年制です。1年で修了、2年で卒業です。卒業後は繰り返し入学することも可能です。毎年、正規の講座のほかに特別講座・修学旅行・入学式・卒業式などがあります。特別講座は大雪山系以外の山で実施される場合や日帰りできないコースの講座です。修学旅行は、道内各地の自然を1泊2日でバスを用いて訪れる親睦を兼ねたツアーです。
- (2) フィールド講座は、山頂を目指すヌプリ(アイヌ語で山の意)コースと、山麓や森をトレッキングするニタイ(アイヌ語で森の意)コースがあります。コースは、体力や興味に応じて講座毎にどちらでも自由に選択できます。コースの最終決定は、直前の室内セミナーで行います。
- (3) 定員制のため、1年間にフィールド講座3講座以上の出席が必要です。各講座の出欠は、原則として年度始めの講座を除いて前講座の室内セミナー時にお願いします。止む得ない事情があるときは、直前の室内セミナー時でも可とします。各講座に欠員が生じたときに限り、その都度聴講生を募集します。
- (4) 室内セミナーは、フィールド講座の事前学習会です。基本的には講座実施3日前(講座が日曜なら木曜)に、旭川ときわ市民ホール(5条4丁目Tel23-5577)で18時30分~20時30分まで行います(会場はホールの掲示板で確認のこと)。室内セミナーは、入学に関係なくどなたでも参加することができます。ただし、資料は当たりません。
- (5) フィールド講座は概ね日曜日に実施します。現地までの交通は専用のバスを用い、全員に傷害保険が適用されます。危険が予知されるような天気は別として、基本的には雨天時も実施します。状態によってはルートを変更する場合もあります。フィールド講座の帰り、近くに施設がない場合を除き入浴がセットされています。入浴の用意・着替え等をご持参下さい(講座の間、バスの中に置いておけます)。
- (6) フィールド講座の参加費(交通費・保険料など)は講座ごとに違いますが、概ね1講座 5 500円~8000円程度です。ただし、修学旅行や宿泊を伴う特別講座は別途参加費になります。 参加費の支払いは、室内セミナーの時にお願いします(前日までのキャンセルは半額返却いたします)。
- (7) 安全管理のため入学時に所定の健康・経験等に関する問診票を提出していただきます。 (問 | 診票に書かれた個人情報は目的外に使用いたしません。管理を厳守します。)
- (8) フィールドの講座には、スタッフが同行し安全には充分配慮しますが、行動の安全管理は自己責任です。

「お任せ意識」ではなく、自分自身が自然と向き合っていることを自覚し、健康管理・装備・行動頭には十分配慮をして下さい。無理をせず自分の身の丈に合わせて自然を楽しむことを基本にして下さい。

- (9) フィールド講座の集合場所は、特別の指定がない限り裏面の場所になります。決められた時間を厳守の上ご集合下さい。出発時間が延びると全体の行動に支障が出ますので、予定の時間になれば出発します。交通事情等でトラブルが生じたときは携帯等でご連絡下さい。
- (10) 入学の申し込みは毎年必要です。申込金 5.000 円(テキスト代・紀要代・運営経費等)も毎年必要です。(納入は入学式時にお願いします)

# 大雪と石狩の自然を守る会



# 第30期(2010年度)大雪山講座「ひぐま大学」フィールド講座一覧

講	フィールド講座	主な講座の内容(行き先・詞	講座ポイント・主なルート)									
講座	室内セミナー	ヌプリコース	ニタイコース									
入学式	5月13日(木)	【第 30 期ひぐま大学入学式】ときわ市民ホール ▶ひぐま大学の入学式とオリエンテーションを行い ▶ひぐま大学の実施要領説明・スタッフ紹介・フィ										
第 1 講	5月23日(日)		下に広がる上川盆地と空知平野生い立ちについて									
座	5月13日(木)	学びます。神居岩・神居古潭渓谷の成り立ちと石狩川について学びます。 -旭川=春志内…神居山…春志内=神居古潭…神居岩…神居古潭										
第 2	6月20日(日)	【白雲山 1491.4m】 溶岩円頂丘や堰止湖を生んだ然別火山、周辺に広が る風穴の不思議の世界を訪ねます。	【東ヌプカウシヌプリ 1252.2m】 東ヌプカウシヌプリの森林植生、岩塊斜面に生息す るナキウサギの感動の世界を学びます。									
講座	6月17日(木)	▶旭川=三国峠=然別湖=登山口…白雲山(往 復)=糠平温泉=旭川	▶旭川=三国峠=然別湖=白樺峠…東ヌプカウシ ヌプリ(往復)=糠平温泉=旭川									
第 3 #	7月11日(日)	【富良野岳 1912.2m】 ▶十勝岳連峰きっての花の名山に、エゾルリソウを訪ねます。十勝岳火山の中では古参の富	【富良野岳 7 合目展望台 1748m】 ・十勝岳連峰の山々を眺めながら、山麓の樹林、 ハイマツ群落、高山帯のお花畑と変化する植									
講座	7月8日 (木)	良野岳に立ち、その生い立ちを学びます。 ・旭川=十勝岳温泉…安政火口…七合目お花畑 …富良野岳(往復)	生をじっくり観察します。  ▶旭川=十勝岳温泉…安政火口…富良野岳七合目   展望台(往復)									
第 4	8月1日(日)	【沼ノ原 1435m】 ▶大雪山を代表する高層湿原を訪ねその成り立 ちと生育する湿原植物について学びます。	【大雪高原沼めぐり 1480m】 ▶高根ヶ原の地滑りによってできた高原沼群を巡ると共に、ヒグマの生態を学びます。									
講座	7月29日(木)	<ul><li>▶旭川=層雲峡=沼ノ原登山口…沼ノ原…大沼 (往復)=層雲峡=旭川</li></ul>	▶旭川=層雲峡=高原温泉…高原沼めぐり…高原 温泉=層雲峡=旭川									
特別	8月29日(日)	【支湧別岳 1687.7m】 ▶パンケシユウベツ川沿いに開かれた登山道から稜線の発達した支湧別岳に登ります。岩稜に生える植物の不思議を学びます。	【白滝盆地の地質探訪】 ▶白滝盆地は、日高累層群の基盤と新第三紀系の 堆積岩や溶結凝灰岩の山地が取り巻いていま す。地層の生きた博物館を巡り北海道の生い									
講座	8月26日(木)	▶旭川=白滝=支湧別岳登山口…支湧別岳(往 復)=白滝=旭川	す。地層の生さた博物館を巡り北海道の生い 立ちを学びます。 ▶旭川=白滝=白滝盆地地層巡り=旭川									
特別	9月12日(日))	【ユニ石狩岳 1745m】 ▶石狩岳連峰東端の山・ユニ石狩岳に登る。十 国峠からコースに沿って次々と現れる高山植 物群落と、石狩・東大雪の眺望が見もの。	【十石峠 1576m】  ▶林床の美しい鳴兎園を通り、ナキウサギの名  所・十国峠を訪ねます。十勝と上川を分ける									
講座	9月9日 (木)	が肝浴と、石狩・東大当の晩堂が兄もの。 ▶旭川=層雲峡=登山口…鳴兎園…十国峠…ユ 二石狩岳	稜線上にあり、ニペソツと石狩連峰の眺めが   見もの。   ▶旭川=層雲峡=登山口…鳴兎園…十国峠									
修学旅	10月9日(土) ~10日(日)	【遊楽部川・熊石・乙部・美利河】 ▶サケの遡上する遊楽部川、隆起・沈降を繰り返し 訪ねます。後志利別川につくられた業利河ダム。	して形成された乙部海岸の地層など道南の自然を と全長 2.4 キロ日本最長の魚道を見学し、河川の									
行	10月7日(木)	利用と自然環境について学びます。 ・旭川=八雲=遊楽部川=熊石(宿泊)=乙部=4										
第 5	1月23日(日)	▶峡谷を綾取る幻想的な樹氷のたにをおとずれます。	す。アニマルトラッキングと渓谷の眺めが見事で									
講座	1月20日(木)	す。層雲峡渓谷の生い立ちとともに大雪山の開き ▶旭川=層雲峡…もみじ谷…層雲峡=旭川	発と保護の歴史についても字ひます。 									
第 6 課	2月20日(日)		スノーシューをつけて歩きます。雪を被った河畔 生き物たちのくらしをフィールドサインから学び									
講座	2月17日(木)	ます。 ・旭川=美瑛…美園…美田=西神楽										
卒業式	3月12日(土)	【第 30 回ひぐま大学卒業式】花月会館 ◆ひぐま大学の卒業式と卒業交流会を行います。 ◆卒業証書・修了証書・皆勤賞の授与。紀要(会記	ま)の配布。交流会・恒例オークション。									

## 利尻島からの報告 ~利尻山の未来~

小杉和樹(利尻島自然情報センター代表)

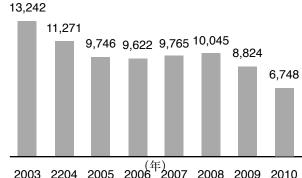
#### はじめに

利尻山の保全と、そこに脈々と命を繋いで来た生き物たちを守るために、個人、団体、そして地元市町村 と環境省を中心とする関係機関の取り組みが始まり10数年がたちました。あらためて、これまでの取組み の概要をお伝えします。

#### 1)利尻山の登山者数の把握

2002年までは推計値として年間12,000人の登山者利用 としてきましたが、2003年以降は赤外線カウンターの設 置により、ある程度実数が補足できるようになり、概ね 推計値とは乖離していないことがわかりました。ただ し、最近の登山者数は年間1万人前後で推移し、昨年か らは利尻島の観光入込客数が減少しているように登山者 も減少傾向にあります。

#### 表1. 利尻山登山者数の推移(人)



#### 2)携帯トイレ

利尻山の環境保全や植生への踏込み防止対策として行

われてきた携帯トイレ普及の取り組みは、2000年からの利尻町・利尻富士町による携帯トイレの無料配布か ら本格的に始まりました。年間1万個程度の配布を続け、初年度6.5%だった使用済み携帯トイレの回収率も 2005年には26.4%となり、2006年からは有料化に切り替えることができました。回収数から有料化による影 響はほとんどないと考えられ、登山者数に対する回収数をみる限り、最近では3割程度の方が山中で携帯ト イレを使用していることが伺えます。こうした利尻山における携帯トイレ普及には、携帯トイレ用ブースの 設置と回収システムが重要な役割を担ってきました。無料配布に伴い設置されたテント式ブースからFRP製 のブース、そして2007年には環境省の直轄事業により、完成度の高い木製ブースへの更新です。こうして、

± 0	4年出り ノハ	エコーナーコア ネットニューロイ レンロ	(2006年以降の配布数は購入数)	
757	担分トイ	~ MEXH N7 / NIDIIIV 175 YH	1.2006年17月全(7)四十年37月年16 7 37!	

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
配布数	12,650	9,550	10,150	10,533	9,517	9,210	4,939	5,644	5,857	4,901
回収数	823	716	1,354	3,833	2,545	2,429	2.396	2,164	3,541	2,759
回収率	6.5%	7.5%	13.3%	36.4%	26.7%	26.4%	48.5%	38.3%	60.5%	56.3%

現在では鴛泊コースに3カ所4基、沓形コースに2カ所2基(1 基は既存FRP製)が設置されています。このことにより、植生への 踏み込みは相当減じていますが、未だにキジ打ち跡や使用済み携 帯トイレの投げ捨てが、あることも事実です。

#### 3)登山道維持補修

2004年から沓形登山道合流点直下で試験的に実施された麻製土 嚢袋の設置に始まり、2007年からの小型フトン篭による維持補修 や利尻山麓の森林帯にある沓形登山道での近自然工法のステップ



写真1. 2004年の土嚢設置作業

&プールの理論を用いた石組帯工の施行による維持補修を経て、 現在山頂付近や鴛泊9合目以下で行われている本格的な登山道整 備に繋がりました。利尻山の登山道整備は、単にハード整備をす るのではなく「登山のしかた」と云うソフト対策も含めて取り組 まれています。

#### 4)利尻ルールとストックキャップ

利尻山では2006年から「山に優しい登山」をスローガンに、携帯トイレやストックキャップ利用を啓蒙する「利尻ルール」の普及に力を入れています。そして、2007年からはキャップを紛失したり、持っていない方にキャップを利用して頂くために、島内の主要な宿泊施設や鴛泊登山道入口管理棟などで普及用ポスターを掲示しての販売もしています。2007年は165個、2008年は265個、2009年には223個の購入がありました。

#### 5)利尻アクティブレンジャー

利尻山、つまり利尻島の自然環境の保護・保全のためには、利 尻島常駐のレンジャーが必要と、環境省にその配置を要望し続 け、その悲願が叶ったのは2006年でした。環境省はアクティブレ ンジャーを利尻島に配置し、現在に至っています。それにより利 尻島の公園管理は格段に向上し、上記の取組みが進んだのは、取 りも直さず利尻アクティブレンジャーの名実共にアクティブな業 務遂行の賜物でした。

#### 6)外来種防除

利尻山にも平地から徐々に外来種の脅威が高山に迫っています。高山帯の植生を守るために、利尻富士町では登山道入り口に、画期的な「靴洗い場」を設置しました。もちろん、こうしたハード整備だけで外来種を高山に持ち込むことを防止することはできません。いつのときも登山者の意識が重要であるとともに、実際の駆除にも取組み、防除に努めることが大切です。

#### 7)リシリヒナゲシ

リシリヒナゲシは利尻山の高山砂礫帯にのみ自生する利尻山固有種で、レッドリストでは「絶滅危惧IB類(絶滅寸前)」とされています。リシリヒナゲシを取り巻く自生地の環境や過去にリシリヒナゲシと良く似た平地で栽培されたヒナゲシの種子が自生地などに播種されたことにより、一層絶滅の怖れが増大しています。自生地の保全とリシリヒナゲシの保護のための取組みも始まっています。詳しくはリーフレットを参照して下さい。

#### おわりに

登山道や植生にローインパクトな登山をすることは、最早当たり前のこととなり、なおかつ、登山者は登山道の維持補修が責務であることを認識する時代になったはずです。



写真2.9合目の広範囲に拡大した裸地に 植生回復と土砂流出防止対策を実施



写真3.2010年リシリヒナゲシ調査 (左2人目が岡田AR)



写真4.鴛泊登山口に設置された足洗い場

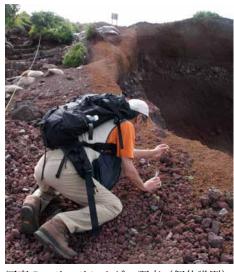


写真5. リシリヒナゲシ調査(個体識別)

#### レブンクル自然館 / 宮本誠一郎

日本最北の島礼文島は高山植物の島として知られ、レブンウスユキソウやレブンソウなど地域の名前を冠した植物や、道内でも高山帯に生育するチシマゲンゲやリシリソウ、などが標高 200 メートル以下の地域で登山をせずに身近に見ることができるような島です。

そんな身近さが、美しい花々にとっては盗掘の被害に遭う要因にもなっています。

特にレブンアツモリソウは、その花の美しさから盗掘され続け、絶滅危惧種に指定されています。 こんな礼文島の今年の報告をさせていただきます。

礼文町では「高山植物保護対策協議会」という会があり、環境省、林野庁、北海道、北海道警察、礼文町、などが協力し合い保護活動を行っています。また、町内で活動するパークボランティア、礼文島自然クラブ、礼文島自然情報センター、なども一緒に協力して保護活動を行っています。ただし、先ほどご説明したように花畑が身近な車道脇にもあるために、盗掘される花々はあとをたちません。

10年前とくらべると監視員の人数も増えましたが、訪れる観光客の中には「記念にしおりにしたい」とか、「庭で育ててみたい」という気持ちが抑えられない方がいて、ちょっとした隙をうかがって、花を持ち去っていきます。また、「もっといい写真を撮りたい」と花畑に踏み込んで行く方もいます。そんなちょっとした隙をなくすためには、ボランティアの力が不可欠と思っています。花の時期には散策路にいつも人がいて、声をかけられることで盗採や踏み込みを躊躇する方もいます。花を守る監視活動と云うよりも、皆で花散策をして「在るがままの花を愛でる楽しみ」を伝えていく。そんな気持ちでボランティアのパトロールを行っています。もっと、もっとそんな仲間が増えてくれればいいなと思っています。

礼文島は人の生活圏と花畑が交差している地域もあるため、盗掘以外にも道路拡幅や人命保護のために、高山植物の生育地がおびやかされています。そんな中でもパトロールとともに継続的に取り組まなければならない問題としてあるのが「外来植物問題」です。道路法面や園地の緑化のために持ち込まれた張り芝から、アカツメクサ、シロツメクサ、カモガヤ、チモシーなどが国立公園内にはびこり、特別保護区内にも定着して、さらに勢力を広げつつあります。この数年環境省のグリンワーカー事業の助成をうけて外来種除去を行っていますが、見た目にわかるほどの結果が現れていません。「除去したその年は見えなくなっても、翌年になるとまた繁茂している」のが現状です。そして、毎年行われる道道の補修工事や拡幅工事の後には、緑化工事で外来種が大量に持ち込まれています。島に渡るフェリーでは外来種の持ち込み防止のマットなどが敷かれていますが、工事での持ち込みは野放しです。

生物多様性が叫ばれる中で、自生の植物や生物を守る観点から、北海道及び環境省として、国立公園地域の内外にかかわらず工事緑化に関する規制を設けることが望ましいのではないでしょうか。

特に礼文島のように高山植物が人の生活圏内にある 地域での、国や道の環境保全に対する一歩進んだ取り 組みを期待していることを、機会あるごとに伝えてい きたいと思います。



写真:レブンアツモリソウ / アツモリソウ群生地 /2009.06.02.

# 大雪山におけるエゾシカ出没の現況とアンケート調査への協力のお願い

環境省北海道地方環境事務所+さっぽろ自然調査館

#### ■大雪山におけるエゾシカ出没の現況

現在、大雪山国立公園の高山帯周辺においてエゾシカの実態調査を実施しています。高山帯には希少な植物が多く、高山植物に依存している希少な昆虫も生息することから、エゾシカの影響が危惧されます。以前から高山帯を利用するエゾシカはいましたが、近年の全道的な増加に伴って高山帯に上がってくる個体数の増加が指摘されています。本州の山岳ではすでに甚大な影響が現れており、北海道でも早めの状況把握が求められています。

今年度の事業では、黒岳・白雲岳・石狩岳・然別湖・富良野岳の各地区における現況を把握しました。 各地区の概況は次の通りです。

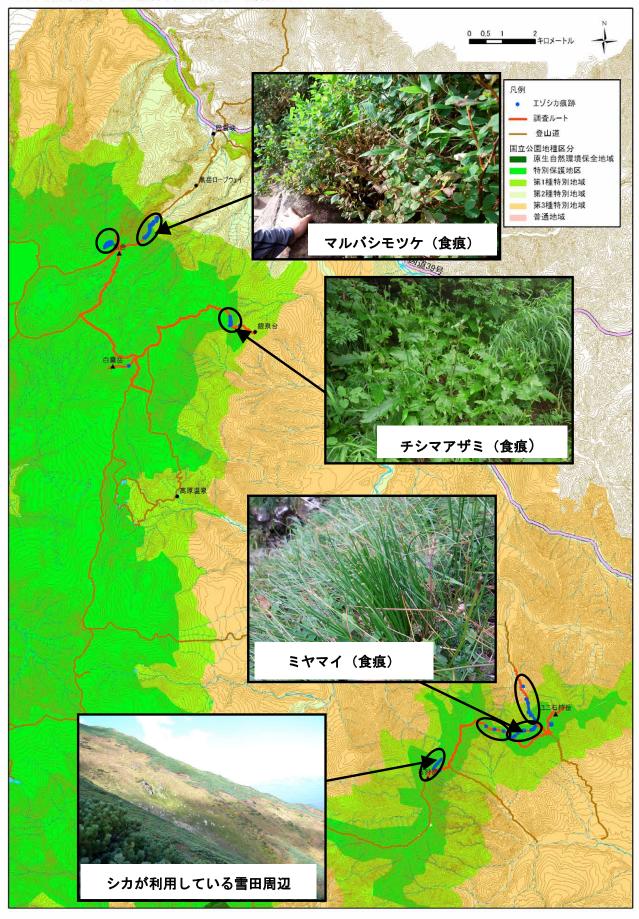
- ・黒岳地区:7合目〜山頂にかけての低木群落や高茎草本群落において多数の食痕が見られ、食痕が見つかった植物は11種に上った。層雲峡ビジターセンターによると、黒岳の登山道沿いでは残雪期(6月)でも新しいシカの糞が見つかるということである。一方、山頂から白雲岳にかけての風衝砂礫地ではほとんど痕跡は見られなかった。
- ・白雲岳地区:銀泉台に近い第一花園に痕跡(食痕や足跡)が集中し、食痕が見つかった植物は 15種に上った。それより高標高域にも同様の植生が存在するが、痕跡は確認されなかった。
- ・石狩岳地区:ユニ石狩沢〜ブヨ沢周辺にシカの痕跡(食痕や足跡)が集中し、食痕が見つかった 植物は27種に上った。ブヨ沢では雌成獣1頭が現れ、採餌を行なう様子も観察された。また、石狩 岳山頂近くの雪田〜高茎草本群落で明瞭なシカ道が遠望できた。
- ・ 然別湖地区: 湖岸〜白雲山〜天望山にかけて、ほぼ全域で痕跡(食痕)が確認された。 食痕が見つかった植物は、調査した全地区の中でもっとも多い 35 種に上った。
- **富良野岳地区**: この地区では登山道沿いでほとんど痕跡は見られなかったが、富良野岳周辺の雪田~高茎草本群落の数箇所で明瞭なシカ道が遠望できた。

いずれの地区もまだ、防鹿柵などがすぐに必要になるような採食圧のレベルではありませんでした。 痕跡の密度などから考えて、いずれの地区でも定着しているのは少数個体とみられます。ただし、高 山帯でエゾシカが好んで利用するエリアはかなり限定されるので、今後短期間で状況が悪化する可能 性もあります。そのようなことから広域的、継続的なモニタリングが重要と思われます。

また、黒岳・白雲岳・石狩岳の各地区の状況から、石狩川水系の沢を利用して高山帯に侵入するエ ゾシカが多いことが強く疑われます。石狩川水系では層雲峡付近に大きな越冬集団が形成されている ことが分かっています。

エゾシカは高山帯よりも亜高山帯に近い植生帯をよく利用し、特に目立つのは雪田~高茎草本群落でした。食痕が見つかった植物は全部で 61 種類に上り、さまざまな植物を利用しています。食痕がよく見つかるのは、アザミ類、マルバシモツケ、チシマノキンバイソウ、ナガバキタアザミ、ミヤマセンキュウなどです。RDB に該当する希少種でも食痕が見つかっています(カラフトメンマ(北海道 R)とミヤマイ(環境省 NT))。

エゾシカ痕跡確認位置図(黒岳地区・白雲地区・石狩岳地区)



No	科名	和名	: <u>痕が見つかった植物(地区別) <sup>学名</sup> </u>	2 RDB	16 指定植 物	黒岳	白雲岳	石狩岳	富良野 岳	然別湖
	オシダ科	オクヤマワラビ	Athyrium alpestre		0		1			
	オシダ科	エゾメシダ	Athyrium brevifrons			2	1	2		
	オシダ科	カラフトメンマ	Dryopteris coreano-montana	道R	0			1		
	マツ科	トドマツ	Abies sachalinensis							1
	イネ科	イワノガリヤス	Calamagrostis canadensis var. langsdorfj	îi				1		1
	イネ科	ミヤマドジョウツナギ	Glyceria alnasteretum				1			
	イネ科	ススキ	Miscanthus sinensis							1
		ミヤマクロスゲ	Carex spectabilis subsp. flavocuspis		0		1	1		
		タイセツイワスゲ	Carex stenantha var. taisetsuensis		0			1		
	イグサ科	ミヤマイ	Juncus beringensis	環NT				4		
	ヤナギ科	バッコヤナギ	Salix bakko							2
	カバノキ科	ミヤマハンノキ	Alnus crispa subsp. maximowiczii				1			
	タデ科	タカネスイバ	Rumex alpestris		0			3		
	キンポウゲ科	エゾノリュウキンカ	Caltha palustris subsp. barthei		0			1		
	キンポウゲ科	サラシナショウマ	Cimicifuga simplex					2		2
16	キンポウゲ科	カラマツソウ	Thalictrum aquilegifolium var. intermedit	ım		1	1	2		
17	キンポウゲ科	アキカラマツ	Thalictrum minus var. hypoleucum							3
18	キンポウゲ科	モミジカラマツ	Trautvetteria japonica		0	1				
19	キンポウゲ科	チシマノキンバイソウ	Trollius riederianus var. riederianus			8	1	7		
	アブラナ科	ハクセンナズナ	Macropodium pterospermum		0			2		
	ユキノシタ科	ノリウツギ	Hydrangea paniculata							12
	ユキノシタ科	ツルアジサイ	Hydrangea petiolaris							1
	(* 5 5 1 1 <u>- 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	ヤマブキショウマ	Aruncus dioicus var. tenuifolius							5
	バラ科	オニシモツケ	Filipendula kamtschatica			1		1		
	バラ科	ミヤマザクラ	Prunus maximowiczii					•		2
	ハッヤ バラ科	チシマザクラ	Prunus nipponica var. kurilensis					1		4
	ハッ <u>料</u> バラ科	シウリザクラ	Prunus ssiori							2
	ハッ <u>料</u> バラ科	オオタカネバラ			0					1
			Rosa suavis		<u> </u>					-
	バラ科	エゾイチゴ	Rubus idaeus subsp. melanolasius							2
	バラ科	タカネトウウチソウ	Sanguisorba stipulata		0		1			
	バラ科	ナナカマド	Sorbus americana subsp. japonica				0	1	1	8
	バラ科	ウラジロナナカマド	Sorbus matsumurana			_	3			
	バラ科	マルバシモツケ	Spiraea betulifolia		0	3	3	4		1
	ニシキギ科	ヒロハツリバナ	Euonymus macropterus							2
	ニシキギ科	クロツリバナ	Euonymus sachalinensis var. tricarpus							10
	カエデ科	ミネカエデ	Acer tschonoskii			1		1		
	カエデ科	オガラバナ	Acer ukurunduense					3		15
	マタタビ科	ミヤママタタビ	Actinidia kolomikta							7
	オトギリソウ科		Hypericum kamtschaticum var. kamtschat	icum	0		1			
	アカバナ科	ヤナギラン	Chamaenerion angustifolium							1
	ウコギ科	ウド	Aralia cordata							1
42	セリ科	アマニュウ	Angelica edulis							1
	セリ科	オオバセンキュウ	Angelica genuflexa					1		
44	セリ科	エゾノヨロイグサ	Angelica sachalinensis							2
45	セリ科	ホタルサイコ	Bupleurum longiradiatum form. elatius							1
46	セリ科	ミヤマセンキュウ	Conioselinum filicinum			3	2	5		8
47	ツツジ科	コヨウラクツツジ	Menziesia pentandra					1		
	ツツジ科	ムラサキヤシオツツジ	Rhododendron albrechtii		0					1
	シソ科	ミソガワソウ	Nepeta subsessilis					1		
		ヨツバシオガマ	Pedicularis chamissonis var. japonica		0			1	1?	
		エゾニワトコ	Sambucus racemosa subsp. kamtschatica							1
	スイカズラ科	オオカメノキ	Viburnum furcatum							6
	スイガスフィー キク科	ノブキ	Adenocaulon himalaicum							1
	イン14 キク科	オオヨモギ	Artemisia montana							6
	キク科	ヨブスマソウ						1		U
			Cacalia hastata subsp. orientalis Cirsium kamtschaticum			8	2	8		16
	キク科	チシマアザミ エゾノサワアザミ				ŏ		ŏ		16 3
	キク科		Cirsium kamtschaticum subsp. pectinellum				2			3
	キク科	ミヤマサワアザミ	Cirsium kamtschaticum subsp. pectinellum	ı var. al	ріпит		3			-
	キク科	ヤナギタンポポ	Hieracium umbellatum		_					1
	キク科	ナガバキタアザミ	Saussurea riederi subsp. yezoensis		<u> </u>	1		2		
	キク科	コガネギク	Solidago virgaurea subsp. leiocarpa		0	1	2	1		5

表中の数字は各地区における食痕の確認箇所数 富良野岳のヨツバシオガマの食痕はエゾシカと断定するだけの証拠が得られなかった 然別湖のトドマツは角こすりによるもの 痕跡確認種数 11 15 27 2 35 延べ確認箇所数 30 24 59 1 136

#### ■山岳域におけるエゾシカ広域調査への協力のお願い

高山帯におけるエゾシカの生息状況や影響を広域的、継続的に把握するため、今後、登山者のみなさんにアンケート調査への協力を呼びかけていくことを考えています(下記のアンケート用紙を使って、今年度から山岳会や巡視員などを対象に予行的な調査を行なっています)。登山中に見つけたシカや痕跡などの情報をノートなどにメモしておいてもらい、下山後、アンケート用紙に記入して郵送(またはファクス)いただくか、専用サイトから投稿いただく方法が考えられます。

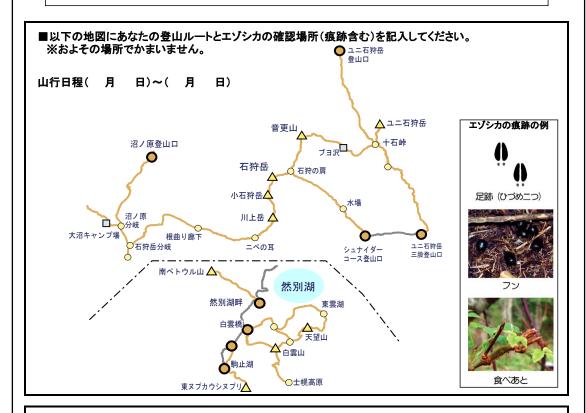


### 大雪山系のエゾシカ調査にご協力ください

4.石狩岳・然別シート

発注者:環境省北海道地方環境事務所 実施・連絡先: 株式会社さっぽろ自然調査館 011-892-5306

北海道では近年エゾシカが急増しており、大雪山の高山植物にも影響が心配されています。エゾシカの姿や痕跡を見た方の情報を集めています。ご協力よろしくお願いします。 このシートに登山ルートと目撃情報を記録して、このシートの設置場所に置くか、連絡先(FAX:011-892-5318、メールchosakan@cho.co.jp)までお送りください。



睛号	日時	場所	確認したもの	詳しい情報(分かる範囲で構いません)
例①	15日9時ごろ	石狩岳	(姿)・鳴声・足跡・ フン・食べあと・他	登山道の東側で、メス2頭が草を食べていた。
例②	16日夕方	沼の原	姿・鳴声・足跡・ ・食べあと・他	草本が食べられていて、フンが周りにあった
D			姿・鳴声・足跡・ フン・食べあと・他	
2			姿・鳴声・足跡・ フン・食べあと・他	
3			姿・鳴声・足跡・ フン・食べあと・他	
4			姿・鳴声・足跡・ フン・食べあと・他	

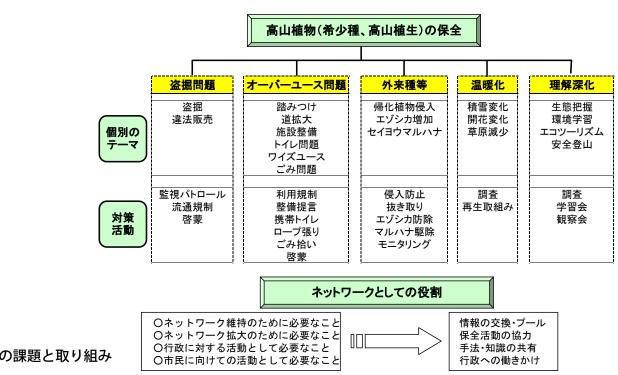
■気がついた点や連絡先など、自由に書いてください。

#### さっぽろ自然調査館

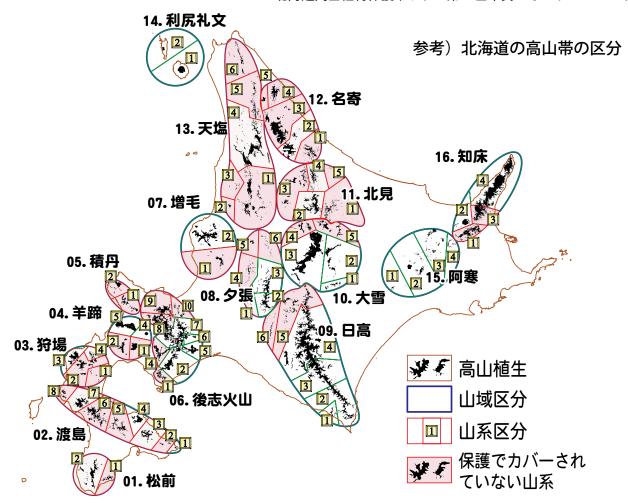
今回ネットワークが名称を改めることになったのは、パトロールなどの努力も実って植物の盗掘事 例が少なくなる一方で、オーバーユース問題、外来種、エゾシカの急増など、高山帯の自然をとりま く問題が多くあるためです。今後のネットワークの取り組みを考えていくためにも、各地の現況や取 り組み内容を集約して整理する必要があると思っています。

以下にテーマとなる項目を例示しましたので、これを元に次年度以降も検討できればと思います。

- Q 1. 活動地域で問題となっている盗掘や野生植物の違法販売の事例について (地域、対象植物、発生時期など)
- ■Q2. 盗掘や違法販売に対する防止活動として取り組んでいること(監視パトロール、流通規制、啓蒙活動など)
- Q 3. 活動地域で問題となっている登山道の崩壊や植物の踏みつけ等の事例について(地域、対象植物、発生 時期など)
- Q 4. 登山道の崩壊や植物の踏みつけ等に対する防止活動として取り組んでいること(ロープ張り、整備の提言、 啓蒙活動など)
- Q 5.活動地域で問題となっているトイレや山小屋等の施設整備、ごみ増加などの事例について
- O 6. トイレや山小屋等の施設整備、ごみ増加などのに対する防止活動として取り組んでいること(整備の提言、 携帯トイレ等の推進、清掃登山、啓蒙活動など)
- Q 7. 活動地域で問題となっている帰化植物の侵入や地域にない植物の播種等の事例について
- Q 8.帰化植物の侵入や地域にない植物の播種に対する防止活動として取り組んでいること(登山道口での対 策、抜き取り、啓蒙活動など)
- 0 9. 活動地域で問題となっているエゾシカによる被害や植生の変化の事例について
- Q10. 活動地域で問題となっている地球温暖化や環境変化の影響と思われる事例について(積雪の変化、開花 時期の変化、植生の変化など)
- Q11.団体内部向けに取り組んでいる啓蒙活動・学習活動について(勉強会、調査会、観察会など)
- Q12. 一般市民向けに取り組んでいる啓蒙活動・学習活動について(勉強会、調査会、観察会など)
- Q13. 活動の中で、行政へ特に働きかけしていること、行政へ要望すること
- Q14. ネットワークに期待すること、担って欲しい活動など



今後の課題と取り組み



北海道の山系のデータ一覧 「北海道におけるギャップ分析研究報告書」(2002) より

山系コード	山系名	面積 (ha)	最高 標高 (m)	標高 幅 (m)	保護区 比率 (%)	保護 GAP	種数	高山 種数	情報 GAP	山系コード	山系名	面積 (ha)	最高 標高 (m)	標高 幅 (m)	保護区 比率 (%)	保護 GAP	種数	高山 種数	情報 GAP
0101	知内	1,268	867	581	_	•	139	6	•	0806	北空知	663	904	587		•	728	60	
0102	大千軒	7,377	1,060	871	10.0	<b>A</b>	669	100	•	0901	アポイ	850	949	739	84.7		921	161	
0201	恵山	250	568	425	99.4		337	39		0902	南日高	13,822	1,459	1,388	50.9		1142	180	
0202	台場	531	679	446		•	275	13	•	0903	中日高	17,581	1,823	1,580	81.8		604	187	
0203	横津	3,842	1,128	680	0.0	•	593	73	•	0904	北日高	52,534	2,047	1,718	59.8		898	245	
0204	駒ケ岳	3,708	730	631	72.6		226	17		0905	狩勝	8,303	1,225	984	0.5	•	594	83	•
0205	二股岳	4,367	887	649	_	•	424	22	•	0906	穂別	1,050	1,017	608	_	•	421	48	•
0206	乙部	8,924	1,015	866	0.0	•	746	74	•	1001	然別	1,836	1,251	916	69.6		742	200	
0207	遊楽部	5,490	1,270	1,140	0.6	•	292	24	•	1002	東大雪	6,083	2,001	1,458	90.4		410	79	
0208	北桧山	1,275	810	592	0.1	•	412	24	•	1003	大雪	34,895	2,287	1,706	97.7		950	279	
0301	ルコツ	384	597	418	_	•	276	11	•	1004	安足間	3,121	1,132	756	0.0	•	386	37	•
0302	長万部	5,979	1,137	1,068	21.4	<b>A</b>	509	131	•	1005	北大雪	4,737	1,876	1,242	40.6	<b>A</b>	486	186	
0303	狩場	5,121	1,509	1,391	90.9		199	16		1101	北見富士	4,083	1,629	1,189	_	•	428	65	•
0304	大平	1,262	1,190	1,003	16.6	<b>A</b>	525	137		1102	天塩岳	9,594	1,551	1,105	34.9	<b>A</b>	682	155	
0401	幌内	2,927	836	594	_	•	456	21	•	1103	岩尾内	6,186	995	807	-	•	509	71	•
0402	昆布	3,188	1,033	744	_	•	157	40	•	1104	ウェンシリ	3,715	1,132	769	29.9	<b>A</b>	344	57	•
0403	寿都									1105	ウツツ	111	810	595	_	•	341	24	
0404	羊蹄	837	1,884	867	100.0		515	118		1201	雄武	4,501	918	582	-	•	115	11	•
0405	ニセコ	8,368	1,296	934	92.3		831	162		1202	美深	8,358	988	719	19.3	<b>A</b>	728	115	
0501	稲穂	2,239	1,285	1,072	_	•	387	28	•	1203	函岳	20,106	1,122	1,017	-	•	433	104	•
0502	積丹	3,078	803	703	2.8	•	329	45	•	1204	ポロヌプリ	4,621	837	690	-	•	351	96	•
0601	室蘭	2,642	840	671	_	•	815	94	•	1205	ピンネシリ	977	698	512	_	•	196	45	•
0602	登別	9,584	1,303	1,014	57.0		728	143		1301	幌加内	11,754	1,002	863	_	•	869	98	•
0603	有珠									1302	留萌	484	730	495	_	•	67	5	•
0604	ルスツ	4,971	1,101	912	_	•	93	12	•	1303	小平	413	564	361	_	•	37	1	•
0605	樽前	4,841	1,095	883	95.7		731	86		1304	朱鞠内	20,275	1,029	908	15.2	<b>A</b>	587	103	•
0606	支笏湖	1,806	1,293	1,081	56.0		488	41		1305	中川	4,468	707	678	_	•	596	103	
0607	空沼	17,840	1,321	1,005	52.5		890	145		1306	宗谷丘陵	2,612	419	361	_	•	238	32	•
0608	無意根	12,566	1,457	1,168	15.9	<b>A</b>	567	144	•	1401	利尻	3,741	1,696	1,434	99.9		654	165	
0609	余市	5,907	1,488	1,163	_	•	776	157		1402	礼文	698	478	449	97.7		500	141	
0610	手稲	1,964	1,100	814	3.3	•	1028	88			ウコタキヌブリ	384	733	418	-	•	441	35	
0701	樺戸	2,547	1,096	1,033	_	•	403	25	•	1502	阿寒	3,541	1,490	1,222	58.1		498	77	
0702	暑寒別	13,101	1,489	1,374	85.0		774	158		1503	屈斜路	5,002	1,367	1,226	93.3		983	171	
0801	冷水	287	848	319	_	•	501	35		1504	摩周	1,012	837	487	92.8		261	73	
0802	夕張	5,309	1,658	1,063	85.7		829	258		1601	標津	8,378	1,056	993	_	•	317	69	•
0803	芦別	5,947	1,705	1,277	78.4		670	181		1602	斜里	3,236	1,528	1,102	72.8		271	129	
0804	美唄	1,452	958	625	0.1	•	264	20	•	1603	海別	10,678	1,410	1,389	_	•	211	87	•
0805	イルムケップ	687	858	363	_	•	109	5	•	1604	知床	35,778	1,644	1,638	65.8		730	196	

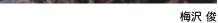


メコノプシス プセウドウェヌスタ 中国雲南省・香挌里拉





梅沢 俊









宮本誠一郎

# 北海道高山植物保護ネット第1回市民フォーラム「お花畑は、いま・・・」

- ◆主催 北海道高山植物保護ネット http://www.cho.co.jp/hap-net/
- ◆後援 北海道 環境省北海道地方環境事務所 北海道森林管理局
- ◆問い合わせ先 札幌事務局(さっぽろ自然調査館内 渡辺・丹羽) 〒70440051 札幌市原別区原別中央1条7丁目145 川岸ビル3際 さ

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階 さっぽろ自然調査館内 電話: 011-892-5306 ファクス: 011-892-5318 メール: hap-net@cho.co.jp

